

温泉地域研究

第24号

2015年 3月

論文

映画『男はつらいよ』から見えてくる温泉地の役割 …………… 西村りえ (1)

研究ノート

強酸性泉を用いた湯治によるアトピー性皮膚炎の治療とその課題
…………… 松本 馨 (13)

タイ北部・メーホンソン県における温泉観光開発
…………… 浦 達雄・小堀 貴亮・アナウッド チョサップ・
パンティラー シンタイポップ (21)

シンポジウム

湯治場の再生－現代の湯治場の意義を考える …………… (29)

書評

菊地一富著：『絆－出会いを大切に』 …………… 長島 秀行 (41)

深津禮二著：『歌集 二人旅』 …………… 長島 秀行 (42)

温泉地情報

柿其温泉にみる「ため湯」の魅力 …………… 澤田 陽介 (43)

学会記事 …………… (45)

日本温泉地域学会

映画『男はつらいよ』から見えてくる温泉地の役割 Roles of Spa Perceiving through the Popular Movie Series “Otoko wa Tsuraiyo”

西村 りえ*
Rie NISHIMURA

キーワード：男はつらいよ (Otoko wa Tsuraiyo) ・寅さん (Tora-san) ・映画を通して (perceiving through a movie) ・温泉地の役割 (role of spa) ・観光地 (sightseeing spot) ・山田洋次 (Youji YAMADA)

1 はじめに

(1) 研究の背景

1969 (昭和44) 年8月27日に封切られた映画『男はつらいよ』は、ロングヒットとなり、その後1995 (平成7) 年までの27年間に48本の作品が作られた。観客動員数は約8,000万人。この作品には「日本人が長い間、大事に育ててきた暮らしのモデル」¹⁾が描かれている。と共に、こうした暮らしから逸脱したフーテン・車寅次郎 (通称・寅さん) が旅する日本の美しい風景がスクリーンに登場する。世界105ヶ国以上で上映され²⁾、今も日本国内で関連書籍の出版や関連番組のラジオ放送が続く「寅さん」人気を支える魅力の一つが、こうした懐かしい風景の数々であろう。その中には数多くの温泉地も登場し、温泉地で過ごす寅さんらの様子が生き生きと描かれている。

ところで、ここ数年、特に湯治場的な温泉地へ出かけるたびに、「街がさびれ、湯治客が少なくなってきた」という声を耳にしてきた。「いつ頃からですか？」と問うと、「この20年ぐらい」「平成に入ってから」という声が多く聞かれた。『男はつらいよ』が終わって今年で奇しくも20年。寅さん映画が上映されていた時代と今とでは、人が温泉地に求める条件や温泉地のあり方が変わっているのかもしれない。その一方で、本作に映し出さ

れた温泉地で過ごす人たちの幸せそうな様子は、温泉地にとって何が大切なのかといった変わらない価値を教えてくれるかもしれない。そんな推測を元に、『男はつらいよ』に描かれた温泉地と寅さんの温泉旅について研究を始めることとした。

(2) 先行研究

まずは『男はつらいよ』について書かれた著書・研究について調べてみたが、「寅さんと温泉地」については論文が見当たらなかった。

風景については、山本浩司氏らにより、『男はつらいよ』の風景論と日本的景観に関する研究が行われており³⁾、寅さん映画の中で描かれている風景は、「遠景の山、面的に広がっていく海や建物群、超近景の樹木などの要素によって構成」された景観が多く、「田舎的」「自然的」「日本らしい」といったイメージがもたらされることが多いとの指摘があった。

埼玉大学の水野博介氏は都市メディア論「都市と映画」で、『男はつらいよ』のロケ地についての研究を行っている⁴⁾。全48作のロケ地資料の作成を行う中で、「時代によって変わらないもの、あるいはむしろ、変化してほしくないものが選ばれて撮影されているように思われる」と記述している。

比較社会心理学の観点から行われた研究の中では、濱口恵俊、金児暁嗣氏ら4人の研究者が6年かけてまとめあげた『寅さんと日本

*温泉ライター (Free-lance Onsen-Writer)

人』⁵⁾が参考になった。「間人」という概念、つまりは「人と人との間に自己の存在を確信」し、「相手に対する深い信頼と相互依存とを属性として宿している」というモデルは、旅に出た際、あるいは温泉に滞在する際の寅さんの行動を知る上で、より深い理解をもたらすキーワードの一つになった。この研究では、寅さん映画は不安鎮静効果をもたらすといった実験も行われている。実験では、日本の宗教性をあらかず「加護（オカゲ）観念」が強い人ほど、寅さん映画を見たあとの不安感の解消の程度が大きくなるというデータも示された。「共同体への帰属意識」と関係するオカゲ観念は、「人知を越えた森羅万象に対して、畏敬の念と共にありがたいという意識を持っているのかどうか」といった観念で、これが不安感解消、すなわち幸福感をもたらすポイントになりうると示している。温泉地を感じる幸福感とも繋がりがありそうである。

竹原弘氏の『寅さんの社会学』⁶⁾では、寅さんは「交換システム」には還元されない「非合理的な行為」をしている場合が多く、「任侠道的な格好の良さ」を価値感として行動していると指摘。平たく言えば、損得ではなく、美学で動くということか。

哲学者の嶋田豊氏は数々の著書・対談で⁷⁾寅さんと山田洋次監督への賛辞を表している。「共感共生の笑い」について書かれた件では、かつて筆者が東北の湯治場で見聞きした、常連客による芸のお披露目会と共通する笑いを思い出させてくれた。また、葛飾柴又のだんご屋が、「閉鎖的な共同体ではなく、開かれた共同の安らぎの場」であり、しかもそれは、ただ受け入れてくれる場所というだけでなく、受け入れてもらう側の寅さんも自分なりに努力をしてその場を創りだしているという視点は、温泉地や宿泊客への提言としても有効であるように思えた。

五木寛之氏の『日本人のこころ4』⁸⁾も寅さんを理解する上で参考となった。これは「サンカ」や「家船」の衆などと呼ばれる、移

動・漂泊・放浪の民について書かれた一冊である。その系譜の一端である「香具師」に寅さんは属している。本書の中で五木氏は、沖浦和光氏の説として、「香具師」は「薬師」の省略形で、元々、薬の行商を行う人が多かったことから名付けられたとの説を記述している。

このほか『男はつらいよ』に関しては100冊を超える一般書・雑誌・写真集などが刊行されている。「夏目漱石の作品と男はつらいよ」「江戸落語と寅さん」の共通点について書かれた文章など、個性的な論評も見られ、『男はつらいよ』が日本の伝統的な芸能文芸を引き継いだ作品であると、改めて認識させられた。

だが、温泉との関わりに関しては、上述のように論文は存在せず、映画スタッフにより、ロケ場所となった温泉地での様子などが描かれているぐらいであった。

(3) 研究の目的と方法

先行的な研究がないということは、まず48作中、どこの温泉地がどう描かれているのかをデータ化する必要がある。全作品を一から見直し、「シーンとして描かれている温泉地と温泉宿」「そこで登場人物が何をしたか」「セリフとして登場する温泉地」「温泉、湯というセリフがどのように使われているか」「看板などに名称のみが登場する温泉地や温泉宿」についてリストを作った。

これとは別に、温泉地ではないが、寅さんや登場人物が泊まった宿（主に商人宿）についてもリストを作成した。全作品48本の上映時間は81時間26分。27年間分の日本の移り変わりを感じられる幸せな時間であった。

リスト作成中に気付いた点もあった。シリーズ第1作『男はつらいよ』（1969年）では、寅さんが京都府天橋立で啖呵売（たんかばい）をする様子が映し出されている。画面には「文殊荘」「旅館松月」といった旅館の看板も見える。天橋立は日本三景の一つ。映画が上映された当時は観光地という認識であった

が、1999（平成11）年に温泉が開発され、現在は約30軒の宿に温泉が引かれている。

このように、映画公開後に温泉地となった場所が、48作品中、数多くあった。そのため、新しく温泉地になった場所についても改めてリストを作り、いつ温泉が開かれたのかを調べた。調査に関しては、観光協会や旅館組合、市町村の公式HPを参考にしたほか、どうしても判らない温泉地に関しては、直接湯元の宿などに電話をし、確認をとった。

こうした作業の中で、最も難航したのは商人宿についての調査であった。ほとんどの場合、宿のシーンは、セットで撮影をしたという話を関係者から聞いたが、モデルになった宿や家屋があった場合も多かったようである。そのためモデル宿があったのかどうか探してはみたが、商人宿は駅あるいは港周辺に立地していることが多く、再開発等で街の形や住所が変わっていて、どの場所にどんな宿があったかが判らなくなってしまっているケースが多かった。たとえば第2作に登場する京都の「巴家」。こちらは元土佐藩の宮川助五郎寓居であったが、現在は更地になっている。京都在住の知人に場所を見て来てもらい、隣接するお茶屋に確認をとった。第6作で寅さんと宮本信子が泊まる長崎港近くの「旅館丸重」は、その後、港が埋め立てられ地形が変わってしまったが、元船町の自治会長さんらの話により、「実存していた宿で、現在アパホテルがあったあたりではないか」との証言を得られた。第15作でお疲れサラリーマン兵頭と泊まる青森港近くの安宿「陸奥館」については、青森市の市史編纂室のご協力により、1973（昭和48）年と1978（昭和53）年の商工名鑑に「陸奥屋支店」という宿が、当時の住所表示で「新町一丁目4-1」に記載されているところまでは判ったが、この宿がモデルになったのかどうかは確証がもてなかった。第9作の金沢の宿「百山」や第24作の和歌山県粉河寺近くと思われる商人宿（階段途中で部屋がある特徴的な建物）は手

がかりさえ見つからなかった。

一方、温泉地では、休廃業したり、更地になってしまった宿であっても、映画撮影や宿の記憶が、地元住民の間で受け継がれており、不明宿は一軒もなかった。しかし、これは、島や宿場町でも同じで、温泉地の特徴というよりは、古くからのコミュニティが残る地域の特徴であろう。

さて、このように映画に登場する温泉地や温泉宿のリストを作った後、映画に描かれた温泉地や温泉宿についての現地調査と、観光協会や宿への聞き取り調査を行った。質問は、「寅さんの舞台となった頃と現在とでは、温泉地や温泉宿が変わったかどうか。変わったとしたら何が変わったか」という内容である。

こうした一つ一つの調査を通じて、『男はつらいよ』というある一定の視点⁹⁾から（この場合は山田洋次監督の視点になるが）選ばれた温泉地の、何がどう変わったのか、あるいは変わっていないかを探り、その変化がなぜ起こったのか、あるいはなぜ起きなかったのかについての検証までできればと考えている。

本稿はその前段階として、寅さんが旅した時代の温泉地の状況、温泉地が映画にどのように描かれているのかについて見ていながら、温泉地の役割を考察するのが目的である。

2 寅さんが旅をしていた頃の日本

(1) 日本の経済成長と重なる寅さんの時代

まずは寅さんが旅した頃の日本がどのような状況にあったのか、概略を記す。

『男はつらいよ』が初上映された1969年は人類が初めて月面着陸に成功した年である。日本は高度経済成長期で、GNPは世界第2位となった。1970年には大阪万博が開催され、山陽新幹線が開通し、海外旅行者数が100万人を突破。右肩上がりの経済成長が続く。その後、オイルショックによる一時的な落ち込みはあったものの、1986年からはバブル期を迎え、1991年までバブル経済が続く。シリーズ終盤となる1992年以降、経済

は低迷する。本作が終了した1995年は、戦後50年の節目の年にあたり、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件が起きたことでも記憶に刻まれている。

寅さん映画の27年間は、高度経済成長やバブル経済によって日本の風景、日本人の暮らしが大きく変わっていった時期と重なる。

それに伴って、生き方あるいは故郷に対する人の意識も変わってきた。映画評論家である佐藤忠男氏は、今(1988年・筆者注)の若い人たちは、「定職につかないということをやつだん悪いことだとは思わず、またそれを遊び人になることだとも思わなくなってきた」ため、「寅さんが絶えず柴又の家族や地域の仲間がいい顔をしようとする気持ちがわからなくなりつつあるのではないか」と書いている。この一文は、筆者も含めたバブル期の若者たちの意識であったと言って良い。

しかし現在は、「正規で働こうとは考えているが定職に就けない」¹¹⁾あるいは「生涯未婚である男女」¹²⁾が激増しており、ある意味、寅さん的な生き方が増えているとも言える。その上、寅さんにはあった葛飾柴又の団子屋のような、具体的な帰る場所がある人も少なくなっているのではないか。2014年にアットホーム株式会社が行った意識調査¹³⁾によると、東京出身で、故郷があるとした人の割合は45.7%、ないと答えた人の割合は40.7%であった。正月や盆が宿の繁忙期となるのも、帰る場を持たない人が多いことの表れであろう。またここ数年、温泉宿に出かけた際、「法事で帰郷したが泊まる部屋がない」「クラス会で帰ってきたが家がもうない」といった宿泊客によく会うようになってきた。

こうした社会状況の変化を鑑みても、寅さんの旅を知る意味は大きい。

(2) 温泉地の変化について

次に、寅さんが上映されていた時期と、その後の温泉地の変化について考察する。

図1は温泉宿の宿泊施設数および年間延泊泊利用人員の変化である。白い部分は映画上

映時期。網掛けしている部分はシリーズ終了後から2012年度までとなっている。これを見ると、映画終了後、90年代の後半から宿泊施設数や宿泊利用人数とも減少していることが判る。宿泊施設数のピークは1997年の1万5,643軒、年間延泊泊利用人員のピークは1992年の1億4,316万4,495人。多少凸凹しながらもその後約20年間、減少し続けている。

一方、図2は温泉地数と源泉総数の変化を示している。同じく白い部分はシリーズ上映時期。網掛けしている部分はシリーズ終了後から2012年度まで。こちらはシリーズ終了後もしばらくの間、増え続けていることが判る。温泉地数は2010年に3,185ヶ所。源泉総数は2006年に2万8,154と最大数となり、

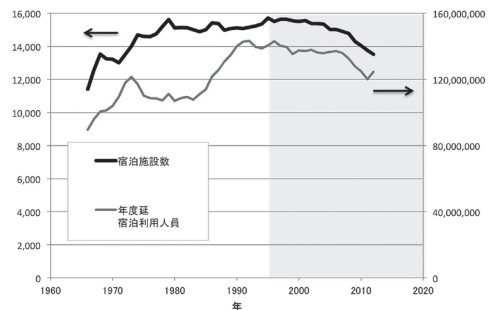


図1 宿泊施設数と年間延泊泊利用人員の変化
(注) 環境省自然環境局「温泉利用状況」に基づき
グラフ作成(加茂卓子・著者)。

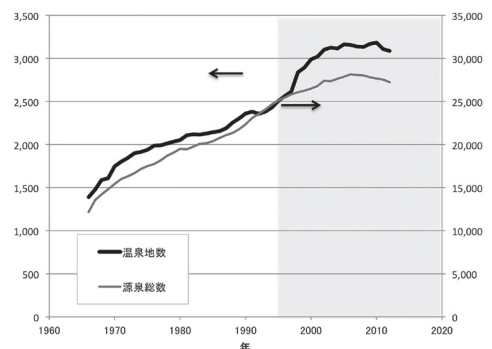


図2 温泉地数と源泉総数の変化
(注) 環境省自然環境局「温泉利用状況」に基づき
グラフ作成(加茂卓子・著者)。

以後、減少に転じている。

これらのことから、シリーズ終了後しばらくの間は温泉開発が進み、新しい温泉地や温泉宿が増えていく一方で、宿泊客数や元々あった温泉旅館は減少。古くからある温泉地や温泉宿の苦しい状況が数字からも判る。

寅さんが訪れた温泉地にある宿でも、「お客さんが減って苦しい」「湯治という言葉は死語になっているんじゃないか」といったような声があった。だがその一方で、「以前とそう変わっていない」といった温泉地もあった。

3 『男はつらいよ』が映し出した温泉地

それでは、寅さんが旅した温泉地がどのように映像に描かれているかを考察する。

(1) 寅さんらが訪れた温泉地

映画の中でどの温泉地が紹介されているのかを図3の地図にまとめてみた。寅さんは啖呵売を生業としているため、人の集まる正月などに温泉地へたびたび出かけている。エリア的には九州、特に熊本と大分の温泉地がしばしば舞台になっている。

山本浩司氏らによる調査を見ると³⁾、『男はつらいよ』に描かれた460カ所の景観のうち99カ所が九州となっており、他エリアに比べ登場回数がかきわめて多いことが判る。長きにわたって『男はつらいよ』の助監督を務めてきた五十嵐敬司氏へのインタビュー記事¹⁴⁾によると、「九州が多いのは、山田さんの父親が福岡県の柳川出身ということもある」し、「最後まで(山田監督が好きな・筆者注)SLが走っていたことも大きいかもしれない」と書かれている。

また、大阪万博の終了後に始まった「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンにも映画は関わっている。1971(昭和46)年、国鉄(当時)と松竹とのタイアップにより、第8作「男はつらいよ 寅次郎恋歌」(1971年)のワンシーンが広告に使われ、国鉄3,000駅に掲示された。同じ頃、女性ファッション誌「an・an」(1970年)「non-no」(1971年)が創刊され、

若い女性が個人で旅をする「アンノン族」という名称も生まれた。寅さん映画に金沢や津和野、小樽、大洲、丹後半島伊根の舟屋、鎌倉、佐渡島、琵琶湖長浜などが出てくるのも、アンノン族やディスカバー・ジャパンの影響があったものと思われる。

こうした旅のあり方が浸透するにつれ、地方を旅する都会の女性と、寅さんとが出会うというパターンが出てくる。その端緒が、吉永小百合ら3名の女性が北陸を旅する第9作「男はつらいよ 柴又慕情」(1972年)であった。第23作「男はつらいよ 翔んでる寅次郎」(1979年)の桃井かおり、第30作「男はつらいよ 花も嵐も寅次郎」(1982年)の田中裕子、第47作「男はつらいよ 拝啓 車寅次郎様」(1994年)のかたせ梨乃らと寅さんとの出会いも同様である。そこで描かれているのは、「都会の人が旅をする場所」としての日本である。加藤ゆうこ氏の指摘にもあるように⁵⁾、「そこでは土地の風景は観光の対象として使われるものの、土地の人はそれほど重要ではなくなってくる」ということになる。

温泉地の描かれ方にも似た傾向が見られる。シリーズ初期に登場する温泉地では、寅さんは温泉宿の番頭として働いたり、地元湯治客と一緒に風呂に入ったりしているが、後期では、傷ついた都会の人を温泉宿で慰めたり、郷土史研究会という趣味のグループのメ



図3 寅さんらが訪れた温泉地
(注)筆者・後藤和則作成。

ンバーと一緒に温泉宿に泊まったりしており、温泉地の人との触れ合いは少なくなっている。

【商売をした温泉地】 北海道虎杖浜、山形県上山、長野県別所、神奈川県箱根、静岡県箱根山寺、岐阜県長良川・下呂、福岡県原鶴、大分県鉄輪、長崎県島原、鹿児島県霧島

【商売以外で訪れた温泉地】 北海道カムイワッカ・ウトロ・支笏湖・養老牛・恵山・登別、青森県嶽、秋田県玉川、宮城県鳴子、福島県会津柳津、茨城県袋田、群馬県磯部、静岡県下田、東京都伊豆大島・式根島、長野県木崎湖・別所・南木曾、三重県湯の山、和歌山県加太淡嶋、島根県温泉津、大分県湯平（写真1）・由布院・別府・鉄輪・天ヶ瀬・日田、熊本県杖立・栃木・田の原、長崎県雲仙、佐賀県古湯、宮崎県青島、鹿児島県鯉 *鉄輪と別所は重複

図3は寅さん以外の登場人物が訪ねた温泉地も含む。たとえば妹のさくらやおいちゃん・おばちゃんたちが家族旅行で出かけた熊本県の杖立温泉や栃木温泉、寅さんの恋のライバルが湯けむりに包まれた秋田県玉川温泉などである。また、訪ねたというほどではないが、由布院など列車の中から風景が映し出されている温泉地や、会津柳津など温泉地として描かれてはいるが、映画上映当時から温泉があった場所も今回はカウントした。

(2) シリーズ終了後に誕生した温泉

続いて、寅さんが訪れた時には温泉はなかったが、映画放映後に温泉開発が行われた場所についても調査した。

図4は映画の舞台となったのち、新規掘削で温泉が湧出した場所である。図2でも示したように、寅さんが旅をやめたあとも次々に新しい温泉地が生まれている。中でも松島や天橋立といった有名観光地に温泉が誕生したことに注目したい（もう一ヶ所の日本三景・宮島にも現在は温泉がある）。

調査中、ある観光地の人から、「まずは温泉がないとはじまらない」といった声を聞い

た。今や日本の観光地の多くに温泉があり、お湯を中心に発展してきた温泉地と、観光地として発展してきた後に新しく温泉が加わっ

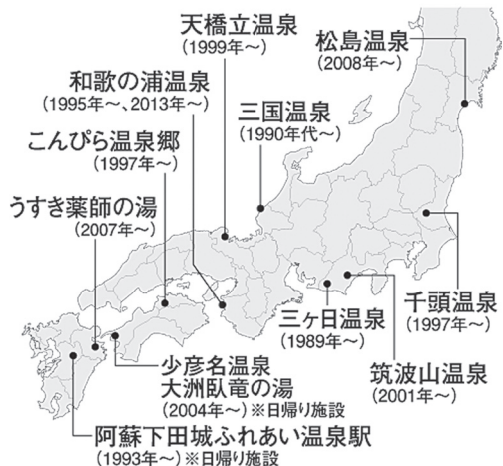


図4 映画に登場後開発された温泉地
(注) 筆者・後藤和則作成。

表1 寅さんの温泉地における行動

①女将らに惚れて番頭として働く	三重県湯の山温泉 島根県温泉津温泉
②自分や他の人を慰めるために滞在	青森県嶽温泉(傷心の自分を) 宮城県鳴子温泉 (自殺未遂のサラリーマンを) 東京都式根島 (タコ社長の娘を) 大分県天ヶ瀬温泉 (離婚した母娘を)
③宴会・式	長野県別所温泉 (旅芸人一座をもてなす) 大分県湯平温泉(法要) 長野県南木曾「紅葉館」 (宴会、親戚である傳の父のおごり) 北海道養老牛温泉(結婚式) 佐賀県古湯温泉(郷土史研究会と宴会)
④人探し(日帰り)	鹿児島県鯉温泉 静岡県下田温泉
⑤地元の人と交流	熊本県田の原温泉 北海道ウトロ温泉 東京都式根島
⑥旅人同士交流	北海道支笏湖温泉

(注) 筆者作成。

た温泉地とが混在している。そのため、元々の温泉地が持っていた役割が見えにくくなっているが、温泉地本来の役割とはどのようなものだったのか、寅さん映画から考察する。

(3) 寅さんの温泉地における行動

温泉地の役割を明らかにするため、寅さんが温泉地で何をしていたのかを調べてみた。

映画の中で寅さん自身が訪ねた温泉地は40カ所。商売でのみ訪れた温泉地及び風景としてのみ描かれている温泉地を除くと16カ所。この16温泉地で寅さんが何をしていたのかを調べると、6タイプに分類できる(表1)。

(4) 寅さんの温泉地以外での行動

寅さんは温泉地以外の場所にも数多く出かけている。比較できるよう、温泉地以外の宿で何をしていたのかについても調べた。温泉地滞在のときほど明確に分類できないところもあるが、大まかに9つに分類できる(表2)。

(5) 温泉地ならではの描かれ方は

温泉地での滞在、温泉地以外での滞在を比べてみると、温泉地滞在のみの特徴として以下の三点を読みとることができる。

①働き手として受け入れられる

第3作「男はつらいよ フーテンの寅」(1970年)の三重県湯の山温泉(写真2・3)、第13作「男はつらいよ 寅次郎恋やつれ」(1974年)の島根県温泉津温泉(写真4・5)で、寅さんは温泉旅館の番頭として働く。とは言え、きちんと雇用契約が結ばれているわけではなく、何となく居ついて無理のない程度に仕事をし、旅館で食べさせてもらい、時々お小遣いをもらおうといった居候的な働き方である。たとえば温泉津温泉での仕事ぶりはこんな具合である。

「朝、目が覚める、耳元で波の音、雨戸をあける、ぱあっと一面、目に染みるような青い海、これが日本海だ。新鮮な空気を胸一杯すううっと深く吸ったとき、下から女中さんの声。番頭さん、朝ご飯ですよ。あい、すぐ行くよ、そう答えておいて、ぽんぽんぽんと

布団をたたむ。階段をおりて、がらっ、湯殿の戸をあけて、ざぶっと朝風呂に入る。身も心もさっぱりしたところで朝ご飯ですよ」「朝ご飯をたっぷりいただいてさあ、仕事です



写真1 大分県湯平温泉。寅さん馴染みの宿がある。石畳の温泉街に今も懐かしい赤ポストが残る
(注)筆者撮影。

表2 寅さんの温泉地以外における行動

①やむを得ず宿泊	風邪(長野県奈良井宿) 雨宿り(宮城県三陸海岸) 船待ち(長崎県長崎市)
②人探し	京都、大阪、吉野、根室、 鹿児島県坊津、北海道小沢 駅前
③お供で観光・宴会	兵庫県たつの市、 長野県野尻宿
④マドンナの介護	沖縄県那覇市
⑤お悔やみ・見舞い	北海道奥尻島、福岡県飯塚 市・秋月市、岡山県高梁 市、長崎県五島列島、 長野県小諸市
⑥常宿に滞在	大阪市通天閣そば、鳥取市
⑦旅人同士で交流	北海道函館市、新潟県佐渡 島、 滋賀県琵琶湖畔
⑧マドンナや偶然知り合った人の家に滞 在	千葉県浦安市、長崎県平戸 市、愛媛県大洲市、京都府 伊根町、岡山県高梁市、宮 崎県油津、瀬戸内海の島、 沖縄県加計呂麻島、長崎県 五島列島、長野県小諸市
⑨商売の途中で滞在	金沢市、長野県奈良井宿、 長崎県呼子、和歌山粉河寺 近く、大分県夜明駅前、 福岡県柳川市、青森市、佐 賀市、北海道釧路市、京都 市、愛媛県大洲市

(注)筆者作成。

よ。まずは土間をばっばっばあっと掃いちゃう、打ち水をさっとして、表の道路まで出てずっと水をまく、そんなところで午前中はおわるかなあ」「午後はまあ海岸の散歩かねえ」

実際、北海道や山形、長野の温泉宿で、こうした居候的な泊まり客の話を聞くことができた。宿の主人はいずれも、「迷惑ということではなくて、おもしろい体験だった」と話していた。北海道の温泉宿にいた「寅さん」は、温泉の歌を作ってくれたのだそうだ。長野の温泉宿にいた「寅さん」は、外国からの旅人で、宿の子供たちの勉強を見てくれたり、旅の話を聞かせてくれたりしたと言う。

こうした個性的な人物が滞在することで、その宿の魅力が高まったり、あるいは経営者家族に楽しみや刺激をもたらしたりすることもある。宿に集う人の魅力もまた、宿や温泉



写真2 (左) 寅さんが番頭として働いていた湯の山の温泉街。廃業した旅館が多く物寂しい。寅さんが働いていた宿も今はない
写真3 (右) 映画で餃子屋として登場する「旅館翠月」

(注) 筆者撮影。



写真4 (左) 温泉津温泉。寅さんが働いた旅館後楽は温泉街の中ほどにある



写真5 (右) 渥美清が宿泊した「菊の間」

(注) 筆者撮影。

地の大きな魅力になりうることを寅さんを見ていると解ってくる。

②人や自分を慰める

第7作「男はつらいよ 奮闘篇」(1971年)のラストシーンに登場する青森県嶽温泉で寅さんは、ひどく落ち込んだ自分を癒すため温泉に入る。心配してやって来た妹・さくらに、寅さんは「ここにいるばあちゃんとね、風呂に入っちゃ背中ながしっこして、キャッキャキャッキャやってたよ」と答えている。湯治客と一緒に混浴温泉に浸って元気になった寅さん、温泉はこうでなくてはと思わせる場面である。

第41作「男はつらいよ 寅次郎心の旅路」(1989年)では、自殺未遂のサラリーマンを慰めるため鳴子温泉(写真6)に一泊する。「ときどき死にたくなる」と言うサラリーマンに、「この温泉はな、頭によおく効くんだってよ。どうだい、しばらくゆっくりここで湯治してみては、な?」「桶にね、お湯をこうくんで、何杯も何杯も、こうやってかける。解ったな」と湯治をすすめている。翌朝、「何年ぶりかでゆっくり眠れた」と言うサラリーマンは、寅さんのそばにいて「かたく縮こまった心が、やわらかく溶けていく」と御礼の気持を伝えている。

このように自分や人を慰めるための滞在は、温泉地の大事な役割の一つである。

③地域まるごと交流

寅さんの温泉地滞在のもう一つの特徴は、



写真6 鳴子の温泉街。舞台となった花園旅館は廃業。建物も壊され更地に

(注) 筆者撮影。

地域まるごとを面として描き、その地域で、人、自然などと交流をしていることである。

温泉地以外での滞在を見ると、交流する人や出かける場所もピンポイントである場合が多い。例外として、マドンナの家(寺やお店など)に滞在し、家業の手伝いをしている場合には、新住民の一員としてその町に溶け込んでいる様子が描かれている。

温泉地での地域まるごと交流の例としては下記3作があてはまる。

第21作「男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく」(1978年)では、熊本県田の原温泉(写真7・8)が舞台。ふらりっと温泉にやって来た寅さんは、ここで共同浴場に入ったり、地元の若者や年配女性、宿の主人と話をしたり、お茶をごちそうになったりする。徒歩であちこちらに出かける寅さんは、温泉街のほぼ全員と顔見知りになっているかのようにある。

第36作「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」(1985年)は温泉アイランドとして知られる東京都式根島(写真9)が舞台である。式根は周囲12キロの小さな島。マドンナが島の小学校の先生であるため、小学校を訪ねたり、同窓会で帰省した卒業生たちの同窓会に参加したりと、世代を超えた交流が島全体で繰り広げられる¹⁵⁾。

第38作「男はつらいよ 知床慕情」(1987

年)は北海道ウトロ温泉が舞台となる。地元の若者や頑固な獣医師、スナックママらとの交流を通して、知床の美しい自然も存分に画面に登場する。ウトロ温泉は知床観光の拠点となる場所にある。リュックを背負った若者旅行者、温泉ホテルへ次々に押し寄せるバスツアー客、「客はみんな素通りだ。買い物はホテルですましちゃうし」とぼやく土産物店兼業のスナックママのセリフなどから、当時の知床の賑わいが映し出されている。ウトロでの温泉開発は知床プームが始まった1960～70年代であり、観光温泉地として発展した。そのためか、本作には温泉地らしい風景は描かれていない。

(6) 寅さん流、宿の選び方、泊まり方

『男はつらいよ』全作を見直すことで、寅さんの宿の泊まり方に特徴があることが解った。濱口恵俊氏が指摘しているように、寅さんは「人と人との間に自己の存在を確信する間人」⁵⁾である。そのため、完全個室となるビジネスホテルは、はなからダメで、第39作でも、「ビジネスでいいかい？」と宿探しを手伝ってくれた警察官にこう言っている。「ベッドってダメ、それから小さな風呂もダメ。狭くってもいいから畳の宿」をお願いしている。そして、「女中さんが、夜の10時頃になると、『うちパートやさかいこれで帰る』ところはやめてほしい。寝る前に、熱燗で



写真7 大分県田の原温泉「大朗館」と共同浴場(現在は休止中)
(注)筆者撮影。



写真8 映画に実名で登場する数少ない温泉旅館「大朗館」の主人・北里民夫さん
(注)筆者撮影。



写真9 第36作に登場する式根島の地鉦温泉
(注)筆者撮影。

キューっと一杯やりたいの。寝衣の上に色っぽい羽織りなんかひっかけて、女中さんが、お盆片手にスーっと入ってくる。『お待ちどうさま』。そんな感じで、一泊1,000円くらいの旅館ないかね」と、希望を伝えている。

「間人」である寅さんにとっては、人の顔が見え会話ができる宿というのが、基本の条件であるようだ。たいていの場合、相部屋も厭わない。隣室に気になる人がいれば、話しかけ、事情を聞いたり酒を奢ったりする。

宿代はもちろん、宴会のお酒や鮎などの特別料理についても、料金を問うことはない。自分にお金がないことが分かっている、たとえば旅芸人一座にふるまう酒は、「安い酒はダメ、役者衆は舌がおごっているから」(第18作)と見栄をはる。一方、宿の人たちも、「無銭飲食」と目くじらを立てることなく、妹さくらがお金を届けてくれるのを待っている。お金がないために、時には働き手へと変わったりもする。大分県湯平温泉の馴染みの宿では、主人とお酒を飲んだり、同宿の若者のために法要を開いたりするなど、旧交をあたため、人のために尽力する。

現在の一般的な宿泊者の意識は、お金に見合った対価を宿に求める、といった泊まり方であろう。もちろんそれが基本ではあるが、嶋田豊氏が指摘しているように⁷⁾、温泉地や温泉宿といった「開かれた共生の場」は、その場を大事に思う人によって努力して創り出されるという視点、つまりは泊まる人たちも一緒になって温泉宿や温泉地という「共生の場」を創っていくという視点を、寅さんから学ぶことができる。そうした滞在のあり方は、泊まり客にとってもそれを受け入れる人たちにとっても、ストレスが少ないように思える。

4 セリフに込められた温泉や湯の意味

映画の中にはセリフにしか登場しない温泉地もある。こうしたセリフから温泉のイメージや役割がどのように捉えられているのかを

次に考察する。

(1) セリフに登場する温泉地

『男はつらいよ』全48作の中で、セリフに登場する温泉地は29ヵ所(長万部、六日市、弥彦を温泉地として数えた場合)。その中で、セリフ最多登場回数を誇るのが、群馬の名湯・草津温泉である。本シリーズは、寅さんの恋を描いているため、「お医者様でも草津の湯でも」というお馴染みのフレーズが、しばしばセリフとして登場する。

草津は、実際の映像には映し出されていないが、シリーズ屈指の名作といわれる第25作「寅次郎 ハイビスカスの花」(1980年)に、寅さんがマドンナ役のリリーと共に「草津ナウリゾートホテル」のマイクロバスに乗って草津温泉へ向かうラストシーンが用意されている。この場面から、ホテルで歌うリリーや、湯畑で啖呵売をする寅さんの姿、仕事が終わる2人で腕を組んで温泉街を散歩したり、共同湯に浸かったりする様子が浮かんで来て、観る側を幸せな気持ちにさせる。

セリフに登場する温泉地はそのほか、北から養老牛、川湯、(長万部)、八幡平、日光、水上、草津、(六日市)、(弥彦)、別所、箱根、伊豆、湯河原、熱海、修善寺、下田、赤石、温泉津、湯郷、別府、鉄輪、由布院、湯平、杖立、古湯、雲仙、霧島、古里、鰻。うちセリフにだけ登場するのは約半数の13ヵ所。新婚旅行先の熱海、紅葉の美しい日光、企業研修で行った箱根など、解りやすいイメージが温泉地名に盛り込まれている場合が多い。

(2) 「温泉」「湯」という言葉の使われ方

寅さん映画では、このようにたびたび温泉が話題にのぼっている。そこで「温泉」「湯」という言葉がどのように何度使われているのかを調べてみた(表3)。

言葉の使われ方を見ると、「温泉」という言葉には、「温泉という幸せな場所」という意味が、「湯」には「効能や気持ち良さをもたらす作用がある」といった意味が読みとれる。

表3 「温泉」「湯」ワード登場回数とセリフ例

温泉	38回	「いいねえ、ふたりに温泉に行くなんて」
		「おりゃあ、必ず金を貯めておじちゃんとおばちゃんを温泉につれて行くからな」
湯	22回	「ああ、いい湯だった」
		「お医者さまでも、草津の湯でも〜」

(注)筆者作成。なお、「温泉」ワードについては、「○温泉」(たとえば草津温泉など)と地名を表す場合はカウントしていない。

5 まとめ

今回の調査研究を通じて、温泉地にはどのような役割があるのか、その一端が見えてきた。それを三点に要約してみた。

(1) 包容力と優しさ

まず、地域まるごとで人を受け入れる包容力や、人をいたわる優しさが温泉地の特徴であり、その役割と言える。『男はつらいよ』に描かれたこうした温泉地のあり方は、石川理夫氏が指摘する「温泉地のアジュール性」を具体的に見せてくれている。

寅さんは、お金もなければ地位もない、風貌もどこかあやしげである。だが、温泉地では、「偉い先生」「立派な人」などと高評価を受ける場合が多い。それは温泉地に滞在している間に、人や地元へ溶け込み、困っている人、弱っている人のために何かをしたり、知り合いにふるまいをしたり、あるいは求められて場を盛り上げたりしているからであろう。寅さんは弱い人にいつも優しい。

温泉地の役割の一つが、体や心が弱っている人を丸ごと受け入れ、元気を取り戻すための場であることを考えると、温泉地で過ごす寅さんは、水を得た魚と言って良い。

(2) 「閑」を得られる幸福な場所

寅さんは、商売抜きで滞在した温泉地で、地元の人と話をしたり、お散歩したり、あるいは同行者と話をしたり、ぶらりぶらりと過ごしている。そんな寅さんを見ていると、温泉地での「幸福感」について改めて考えさせられる。

大の寅さんファンである志村史夫氏は、『寅さんに学ぶ日本人の「生き方」¹⁶⁾』という著書の中で、英国の元外務大臣エドワード・グレイ氏が掲げる「幸福の条件」を記している。それは次の4つである。

①自分の生活の基準となる思想、②よい家族と友人、③意義ある仕事、④閑

この4の「閑」は、「自由、ゆとり、静かな時間・状態」を指す。温泉地は、「閑」を得られる貴重な時間を提供する。寅さんは、温泉地での「閑」を楽しみながら、良き人間関係を築き、その中から自分の役割を見つけ出す。さすがに旅のプロフェッショナルである。とは言え、そのような過ごし方ができるのも、温泉地だからとも言えよう。

(3) 開かれた共生の場

温泉地では、お湯という、他者と自分、人と自然とを繋ぐ流動自在な快樂物質と一緒に身をゆだねることで、他人や自然との信頼関係が築かれる。そうした信頼関係が生み出す、一種、疑似共同体的な空間や時間は、信頼できる共同体を持ちにくくなった現代では、ひとときの安らぎを得られる場となり得る。

寅さん映画を見た学生たちの不安感が解消されたように、現代の温泉地は、こうした疑似共同体としての幸福感を得られる場であり、幸せな幻想の場としての役割を果たし得る。

以前、岩手の山の温泉宿で、毎年一週間ほど滞在する夫婦に出会った。話を聞くと、「宿の女将さんを見ていると、亡くなった母を思い出す」というのが滞在理由の一つであった。女将と話したり、女将が作る料理を食べたり、時には同じお湯に浸かったりすることで、幸せな気持ちを取り戻している様子であった。

幻想であれ、一時的であれ、開かれた共生の場である温泉地の役割は、都市化により個人が孤立すればするほど、ますます大切になっていくと思われる。

謝辞

『男はつらいよ』に登場した各地の温泉地および寅さんが宿泊した温泉旅館、市町村観光課、観光協会、旅館組合、青森市市史編纂室、高橋秀明さん、三浦大治さん、田淵実穂さん、後藤和則さん、加茂卓子さん、滝野沢優子さんらにご協力をいただきました。お礼を申し上げます。

注・参考文献

- 1) 松竹株式会社企画・編集(2005年):『男はつらいよ パーフェクトガイド』日本放送出版協会、22頁。
- 2) 吉備国際大学「備中高梁学」研究会(2008年):『「備中高梁に」に学ぶ』吉備人出版、53頁。
- 3) 山本浩司ら(2003年):「山田洋次監督による映画『男はつらいよ』の風景観と日本の景観に関する研究」、日本建築学会大会学術講演梗概集、717～718頁。
- 4) 水野博介(2012年):「都市メディア論⑧ 都市と映画(その4)」事例研究:『男はつらいよ』をめぐって～資料編2・ロケ地(第25～48作)、埼玉大学紀要(教養学部)第48巻第1号、294頁。
- 5) 濱口恵俊、金児曉嗣氏ら(2005年):『寅さんと日本人～映画「男はつらいよ」の社会心理』知泉書館、17頁、108頁、199頁、59頁。
- 6) 竹原弘(1999年):『寅さんの社会学』ミネルヴァ書房、7頁、171～172頁。
- 7) 嶋田豊(1993年):『山田洋次の映画』シネ・フロント社17～20頁、嶋田豊(1995年):『車寅次郎の世界』シネ・フロント社42頁、75頁、嶋田豊(1999年):『嶋田豊著作集第1巻 文化の時代』萌文社、108頁。
- 8) 五木寛之(2002年):『日本人のこころ4』講談社、254頁。
- 9) 寅さんの好みの温泉については、作品中にセリフとして描かれている。第40作「近くにひなびた温泉でもないかね。ねえ。川ぶちに露天風呂があって、頭に手ぬぐいでものっけて月眺めると、村の娘が、ちょいとゴメンナサイ、今晚お泊まり、なんて話してくれるような所さあ。へへ」、第41作「疲れがずっと抜けるような温泉でさ、かみさんが優しくって、酒が旨くって、どっかこ

の辺にそんな気の利いた温泉ないかい」。このような視点にそって、寅さんにふさわしい温泉地が選ばれたと言って良い。また映画のロケ地には、特にシリーズ後半において、縣市町村の誘致合戦が行われたことが、映画関係者のインタビュー、著作などからも判るが、そうした場合でも、どこを主要な舞台にするかについては、すべて山田監督の決定によるという話を各所でうかがった。(たとえば大分の湯平温泉、熊本の田の原温泉など)。ぶれない寅さん好みの視点で選ばれた温泉地のその後を比較していくことは、温泉地が今後、何を大切にしていけばいいのかわかる一つの目安になるのではないと思われる。

- 10) 佐藤忠男(1992年):『みんなの寅さん』朝日文庫、149～150頁。
- 11) 総務省「労働力調査」より「不本意非正規」の割合が非正規雇用者全体の約19%で、特に男性は171万人(全体の31%)となっている(2013年)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000046231.html>
- 12) 内閣府「生涯未婚率の推移」より 特に男性の生涯未婚率は増加の一途で、平成17年は16%、平成22年は20.1%と激増。小中学校卒の男性は35.2%(大学・大学院卒の男性は13.8%)とのデータも出ている
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h25/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-20.html
*いずれも2015年1月閲覧
- 13) アット・ホーム株式会社調べ。東京在住、既婚で子供がいる30～60代男女600人へのインターネット調査。調査期間2014年3月7日～10日。
- 14) 「男はつらいよ 寅さん DVDマガジン」編集グループ編(2013年):『「男はつらいよ」寅さんロケ地ガイド』講談社、10～11頁。
- 15) 式根島は俳優・渥美清にとっても特別な場所であったようで、島人と一緒に温泉に浸かったりもしている。親友・早坂暁氏へ残した最後のメモも「(一緒に)式根島に行こう」であったと、『読売新聞』(1999年10月26日)に記されている。
- 16) 志村史夫(2008年):『寅さんに学ぶ日本人の「生き方」』扶桑社、67頁。

強酸性泉を用いた湯治によるアトピー性皮膚炎の治療とその課題

Treatment and its Issues of Atopic Dermatitis by Strongly Acidic Hot Spring Cure

松本 馨*

Kaoru MATSUMOTO

キーワード：強酸性泉 (strongly acidic hot spring) ・週末湯治 (hot spring weekend cure) ・アトピー性皮膚炎 (atopic dermatitis) ・蔵王温泉 (Zao spa) ・豊富温泉 (Toyotomi spa)

1 はじめに

(1) 背景

近年、アトピー患者が増加したと言われている。その理由には諸説があり、未だに原因の特定はできていない。治療法はステロイドを使った対症療法が主流で、他には免疫抑制薬を用いたものや、漢方、民間療法などが多数ある。この中で確実な効果が認められているものはステロイドであるが副作用が強く、長期に使用したことによる弊害が社会的問題になっている。

筆者は幼少期には喘息、高校生になったあたりから頭皮に痒みを感じるが増え、薬を使い始めた。当時の皮膚科での治療はステロイドを使用することが当たり前で、それ以外の選択肢はほとんど提供されていない状態であった。そして成人になって症状は慢性化し、脱ステロイドを試みて体調を崩し、再度、ステロイドの使用に戻った。その後、時間をかけて徐々に薬を弱いものにするを試みている状況であった。

(2) 強酸性泉との出会い

そのような中、2009年12月に職場の忘年会で山形県・蔵王温泉を訪れ、強酸性泉に出会った。この年は政府が緊急経済対策の一施策として定額給付金を給付した年であり、それにちなんで12,000円のツアーを使つての会であった。筆者はそれまで山形県に行つたことがなく、蔵王はスキー場であり、温泉は

おまけ程度と考えていた。また、泉質に関する知識もほとんどなかった。

蔵王の湯は硫黄で白濁した酸っぱい強酸性泉 (pH1.5) で、体の傷付いた部位に浸みる感覚が印象的であった。そして、入湯した翌日に肌の調子が良くなり、帰宅してしばらくの間、体調の良い日が続き、長年の懸念事項であった頭皮の痒みが激減したことに驚かされた。そこで蔵王温泉には何かすごい力があるのではないかと考え、湯治を試すことにした。

2 湯治計画

計画的な湯治を行うために蔵王温泉に類似した温泉地を探し、併せて蔵王温泉に通うための日程を定めることにした。なお、筆者の居住地 (東京都) からのアクセスが良いことが選定の条件になっている。

(1) 温泉地の選定

まず、蔵王温泉に類似した温泉が何処にあるのか、情報収集を始めた。情報は主にインターネット上で探し、蔵王温泉の関連サイトや、2ちゃんねるの温泉板、アトピー板、個人サイトなどを参考にした^{1)～5)}。2ちゃんねるでは、石油採掘が由来の豊富温泉に関する書き込みが多く見られ、既に、ここだけは別格の扱いになっていた。

蔵王温泉の特徴である強酸性泉の話題は、アトピーと温泉に関する議論でよく登場し、

*大学職員 (Academic staff) ・草津温泉観光士 (Kusatsu hot spring tourism adviser)

表1 強酸性の温泉地リスト

1. 秋田県・玉川温泉 (pH1.2)
2. 山形県・蔵王温泉 (pH1.5前後)
3. 北海道・川湯温泉 (pH1.6)
4. 青森県・酸ヶ湯温泉 (pH1.4~2)
5. 大分県・塚原温泉 (pH1.6~1.8)
6. 群馬県・草津温泉 (pH1.5~2)
7. 秋田県・川原毛湯滝 (pH1.4)
8. 岩手県・須川温泉 (pH2.2)
9. 青森県・嶽温泉 (pH1.9)

(注) 記事⁵⁾をもとに、pH値は修正追加して筆者作成。

豊富温泉に次いで定番であることが読み取れた。強酸性泉には皮膚に繁殖した黄色ブドウ球菌への殺菌作用があり、それがアトピー性皮膚炎の症状改善をもたらすというのである。

そして強酸性泉は、北は北海道から東北地方、中部の関東地方、南は九州に至り、主に日本列島の火山帯に沿って分布していることが分かった。そこで、インターネット上の記事⁵⁾で得たpH値をもとに、比較的通いやすく、酸が強い温泉地へ行くことを検討した(表1)。

この中で、強酸性1位の玉川温泉は健康な者であっても痛みを感じ、治療に使うには酸が強すぎるといふ指摘があったため、対象から外した。また、入湯前後のケアを考えると、宿泊できない温泉地(塚原温泉)や野湯(川原毛湯滝)は利用に適さないため、対象から外した。この結果、蔵王温泉、川湯温泉、酸ヶ湯温泉、草津温泉が主な行き先になった。そして、まずは効果が確実視されている蔵王温泉へ集中的に通い、体が慣れてきたところで、別の温泉地を巡ることにした。

(2) 日程計画

湯治のための計画を事前に1~2ヶ月先まで立てることにした。一定以上の期間を空けずに通うことで湯治の効果を持続させ、事前に決めておくことで仕事の休暇を取得しやす

表2 湯治日程(2010年)

年/月	日(温泉地)
2010/1	4~5, 16~17, 24~25(すべて蔵王)
2010/2	6~7, 21~22(すべて蔵王)
2010/3	6~7, 14~15, 27~28(すべて蔵王)
2010/4	10~11, 28~(すべて蔵王)
2010/5	~3, 22~23(すべて蔵王)
2010/6	5~7(川湯), 19~20(蔵王)
2010/7	3~4(蔵王), 16~17(酸ヶ湯)
2010/8	15~16(草津), 28~29(登別)
2010/9	4~5, 17~19(すべて蔵王)
2010/10	2~3, 15~16, 29~30(すべて蔵王)
2010/11	13~14(川湯), 28~29(酸ヶ湯)
2010/12	11~12(酸ヶ湯)

(注) 筆者作成。酸性泉の温泉地のみを記載。

くすることが狙いであった。2010年に実際に行った湯治日程を表2に示す。

(3) 湯治のルールと基本パターン

湯治にあたっては効果が安定的に持続し、皮膚へのダメージが強くなるように入湯の間隔を取り、入湯の回数上限などのルールを湯治をしながら定め(表3)、湯治の基本スケジュール(表4)をパターン化した。観光を伴う場合には必ずしもこのパターンに合致しないこともあるが、それでも入湯の間隔や回数に大きな違いが出ないように配慮した。

(4) 帰宅後のケア

帰宅後も湯治の効果が持続するよう、次の湯治に向かうまでの間の対策を行うことにした。まず、蔵王温泉で売っている湯の花団子(写真)を使うようにした。この湯の花団子は、温泉の不溶性成分を固めて作られたものである。そして、入浴剤代わりに温泉水をもらい、自宅の風呂に投入することも試みた。

しかし温泉水を大量に持ち帰ることは大変なため、最終的には別府明礬温泉の湯の素⁶⁾(写真)を利用した。この湯の素は、多硫化態硫黄・酸化カルシウムを主成分とした溶液で、入浴剤のように使用できる。さらに、温

表3 湯治のルール

- (1)移動で体に負担がかからないように夜行バスは使用しない(昼間の高速バスまたは新幹線、航空機を使用する)
- (2)食事制限はしない(宿で食事をとるか、外食するかは温泉地の利便性やツアーの構成、宿泊代をもとに判断する)
- (3)長湯はしない(1回5～10分程度。刺激が強く、体の負担が大きいため長く入るのは難しい)
- (4)入湯は4～5時間の間隔を取る(体が十分回復するのを待ってから入湯する)
- (5)入湯回数は3～4回/泊にする
- (6)石鹸、シャンプーを使わない(強酸性泉はアルカリ性の石鹸、シャンプーは使えない)
- (7)体は洗わず、流し湯で済ませる(温泉に浸かるだけで同様の効果がある。皮膚を刺激しないようにする)
- (8)原則、外湯ではなく内湯を使う(移動が容易なように自室に近いところを使用する)
- (9)頭まで全身湯に浸かるようにする(患部が頭皮にまで及んでいるため)
- (10)風呂を出たら、浸みる患部に傷薬を塗る
- (11)風呂から出て自室へ戻ったら、水を飲んで十分な休養を取る
- (12)肌が強く乾燥する場合には、保湿剤(プロペトなど)を使用する

(注)筆者作成。

泉地で売っている温泉石鹸や、低刺激の石鹸(コンテス スキンケア ソープ)なども試した。

3 湯治の結果と考察

2010～2014年まで5年間の湯治を行った結果を述べる。なお、筆者は1973年生まれで湯治を開始したときの年齢は36歳である。

(1)湯治の宿泊日数

酸性泉のみの宿泊日数を集計したところ、表5のようになった。連泊の最長記録は、2010年4月28日～5月3日の蔵王温泉5泊である。この期間、通常のペースで温泉に入り続けたところ3泊目から皮膚がただれ始め

表4 湯治の基本スケジュール

時間	スケジュール
15時	宿にチェックインし、入湯
	睡眠(強い眠気が来ることも)
18時～	夕食。休憩または睡眠
20時～	入湯。休憩または睡眠
24～1時	(起きていれば、入湯)
	就寝
6時～	起床し、入湯。休憩または睡眠
8時～	朝食。食後休憩
10時	宿をチェックアウトし、帰宅

(注)筆者作成。



写真 蔵王温泉の湯の花団子(左)。別府明礬温泉の湯の素(右)。

(注)筆者撮影。

る症状が出て、湯に浸かった後に真湯で流して効果を弱める必要があった。この結果から、連泊は2泊程度で十分であると判断した。

また、2年目になってから湯治へ行く回数を2週に1回から4週に1回へ減らした。しかし一時的に症状が悪化したため、計画を変更し、3週に1回の頻度で湯治へ行くようにした。2013年以降は、4週に1回の頻度で湯治に行っている。

(2)入湯直後の感覚

強酸性泉への入湯は、体調が悪いときは強い痛みを伴った。特に、湯から出た直後の体が乾く瞬間は痛みが強かったため、適宜、傷薬を使用した。入湯時の痛みと効能はpH値と相関があり、痛みが強い温泉はその分、効能も強く感じられた。中でもpH2前後の源泉は、効能と痛みのバランスで最も優れてい

表5 酸性泉の温泉地への宿泊日数

	蔵王	川湯	酸ヶ湯	草津	その他	合計
2010年	23 (19)	3 (2)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	31 (26)
2011年	2 (2)	2 (1)	2 (1)	10 (10)	2 (2)	18 (16)
2012年	4 (3)	2 (1)	3 (2)	11 (11)	1 (1)	21 (18)
2013年	6 (5)	0 (0)	2 (2)	6 (6)	3 (2)	17 (15)
2014年	7 (6)	1 (1)	2 (1)	12 (6)	2 (1)	24 (15)
合計	42 (35)	8 (5)	12 (9)	40 (34)	9 (7)	111 (90)

(注)筆者作成。()内は湯治に出掛けた回数。「その他」の内訳は登別、那須湯本、万座、沼尻、嶽、乳頭温泉郷・大釜、後生掛、藤七の各温泉。

ると感じた。そして、硫黄成分が濃い方が痛みが緩和される一方で、入湯後に肌が強く乾燥する傾向にあるとも感じた。

また、宿に到着して入湯した後に、強い眠気を感じることもあり、特に強酸性泉でその傾向が見られた。湯治を始めて間もない時期は特に眠気が強かったが、症状が改善するに連れて眠気は穏やかになってきた。強酸性泉へ入湯した後の眠気についてはインターネット上のブログ記事⁷⁾にも同様の記述があった(表6)。

(3) 長期の変化

湯治を始めてから最初の2年間で症状が大きく改善し、ステロイド系外用剤の使用量が激減した。3年目からは慢性化してきたため、4年目からは別の皮膚科医院にかかるようにした。そこで、内服薬のグリチロン⁸⁾を使うようになり、さらに症状が改善してきた。

帰宅後に自宅風呂で使用していた蔵王温泉の湯の花団子と、別府明礬温泉の湯の素は、現在はほとんど使う必要がない状況である。石鹸については、皮膚科医院で紹介された低

表6 「玉川温泉でのアトピー治療(激痛)」

(前略) 全身の至る所にカサブタが出来た私は、そのまま動くときまだカサブタが安定せず剥がれて来たりするので、車で一休みする事にしたのですが、初めはさして眠くなかったので、恐ろしい睡魔が突如として襲ってきました。本当に恐ろしい睡魔で、睡眠薬でも飲んだのかっていう位の勢いで眠りに落ちてしまいました。この時の眠りの深さは、恐らく人生で1、2を争う爆睡だったと思います(決して大げさでないです…)。2時間程して目が覚めたのですが、これほど気持ちの良い睡眠はそうそうあるものではありません。知人に言わせると、これも玉川温泉特有の効果で、その睡眠の間に体の機能が回復していくとのことでした。(後略)

(注) ブログ記事⁷⁾より引用。

刺激の石鹸の使用を継続している。

(4) 温泉地の評価

主に湯治をした温泉地の評価を表7に示す。全ての宿、共同湯を利用した訳ではなく、筆者の個人経験に基づく評価であることは、留意されたい。温泉地では共同湯を使うことはあったが、共同湯を巡ることはなかった。

4 週末湯治という現実的方策

一般に湯治日数は最短でも10日程度必要と言われているが、長期で定期的に訪問するならば1泊2日でも十分な効果があった。強酸性泉の湯治では、長期の連泊をする必要はなかった。社会生活を営む上でも長期の連泊ができる人は限られ、連泊が良いと言われても現実に行くことは難しい。そこで、仕事や学業を続けたまま日程と予算を確保して、週末や連休を絡めて湯治に出かける週末湯治が現実的と考えられる。ここでは週末湯治を行うために役立つ情報をまとめる。

(1) 東京から各温泉地への行き方

表8に各温泉地への行き方の例を示す(運賃に関する情報は平成27年1月現在)。

(2) その他地域からの行き方

表7 酸性泉の温泉地の評価

温泉地	評 価
蔵王	どの源泉でも概ね均一の泉質（酸性・含硫黄－アルミニウム－硫酸塩・塩化物泉）である。高湯通りにある源泉群は硫黄が濃く、相性が良かった。スキーや登山を楽しめて、食事処も多い。長期滞在を想定した施設が少なく、スキー客や登山客と勘違いされることがあった。共同湯には古くからある上湯・下湯・川原湯以外に、休憩処が併設された新しい施設もあり、使い分けられる
川湯	湯量豊富で、どの源泉も概ね均一の泉質（酸性・含硫黄・鉄（Ⅱ）－ナトリウム－硫酸塩・塩化物泉）である。非常に刺激のある酸性泉で、湯治2日目です肌がただれてしまうことがあった。温泉街があり、閑散期でなければ外食も可能である。共同湯として川湯公衆浴場や足湯が設置されている
酸ヶ湯	蔵王に次いで泉質（酸性・含鉄・硫黄－アルミニウム－硫酸塩・塩化物泉）の相性が良かった。大型の一軒宿で湯治部があるため、一人で泊まりやすく、長期滞在しやすい。八甲田山の中腹にあり、登山やバックカントリースキーを楽しめる。夏場でも気温が上がらないため、入湯後に暑さで苦しむことがない。宿内に売店、食事処などがあるため、外出できない状況であっても苦にならない
草津	泉質には湯畑系の源泉（酸性・含硫黄－アルミニウム－硫酸塩・塩化物泉）と、万代鉱系の源泉（酸性－塩化物・硝酸塩泉）があるので、宿を決める際に源泉が何かを確認する必要がある。特に万代鉱

源泉は、成分が湯畑系と大きく異なり、強い酸性（pH1.5）で硫黄分が少なく刺激が強いため、注意が必要。共同湯が豊富にあり、時間湯 ⁹⁾ など湯治法を行う施設も活用できる。宿、食事処が豊富なため、繁忙期でも安価に利用できる

(注)筆者作成。

表8 温泉地への行き方(東京から)

温泉地	行 き 方
蔵王	JR 東日本「お先にトクだ値」を使えば、新幹線運賃が最大35%引になる。山形空港利用で助成金が出たり、航空券のスーパー先得などが使えることもあるので、新幹線以外の移動手段を含めて検討すると良い。冬場はスキーツアーの利用も考えられる
川湯	閑散期や厳冬期の安いツアーの利用を検討したい。観光地としての周辺環境が良好なため、夏休みに家族旅行などで訪れるのも良い。JRで川湯温泉駅まで行き、阿寒バスを利用すれば安価に移動できる。厳冬期には、宿がバスを出して空港からの直接送迎を行っていることもある
酸ヶ湯	厳冬期であれば安いツアーが出ることがある。JR青森駅から宿のバスが出ているので、アクセスはしやすい。冬場のツアーであれば青森空港から直接のバス送迎を行っていることもある
草津	新宿からの高速バス（上州ゆめぐり号）の早売1を利用するのが安価で、3.5～4時間で行ける ¹⁰⁾ 。安価な宿を選べば、宿泊費を含めても合計1万円程度で週末湯治を行える

(注)筆者作成。

表9 酸性泉の温泉地一覧

道県名	温泉地
北海道	川湯、カムイワッカ湯の滝(野湯)、十勝岳、登別、ニセコ五色、吹上、大雪高原
青森	酸ヶ湯、八甲田、嶽、下風呂、恐山
秋田	玉川、新玉川、川原毛湯滝(野湯)、乳頭温泉郷・大釜、須川
岩手	須川高原
山形	蔵王、姥湯
宮城	鳴子「滝の湯」
福島	沼尻、中ノ沢、高湯、岳、微温湯
栃木	那須湯本、奥塩原新湯
群馬	草津、香草(野湯)、万座
新潟	蓮華
神奈川	強羅(一部源泉のみ)
山梨	赤石(冷鉱泉)
長野	毒沢(冷鉱泉)、奥蓼科、洗御殿湯、本沢
富山	みくりが池、らいちょう、雷鳥沢
大分	別府明礬、塚原(宿なし)
長崎	雲仙
熊本	阿蘇地獄
鹿児島	霧島、栗野岳、硫黄島・東(野湯)

(注) 筆者作成。pH3.0未満のみ掲載。

西日本方面は、酸性泉が九州にしかないため、通うことは難しくなる。東北・北海道方面であれば酸性泉は豊富にあるので、通うのは容易である。自家用車を利用すれば、場所によっては半日で湯治に行き戻ってくることも可能である。

(3) 酸性泉リストの作成

筆者は現在、日本全国の酸性泉リストを作成(表9)しており、リスト完成に協力を仰ぎたいと考えている。知名度よりも居住地からのアクセスの良さが重要になる週末湯治では、細かなレベルで候補地を探す必要がある。併せてその温泉地への行き方や周囲の状況、宿の有無といった情報も必要になる。

(4) 湯治宿の条件

湯治宿に必要な条件を週末湯治の経験に基づいて考えた(表10)。人によって重要な項目は異なるが、この条件を満たす宿であれ

表10 湯治宿の条件

条件	詳細説明
自室が浴室に近い	入湯後は痛みを伴うので、浴室に近い部屋が必要。古い宿は増改築を繰り返し、複雑な形状であることも多い。迷わず移動でき、階段は少ない方が望ましい
外湯よりは内湯が良い	外湯では必然的に自室から遠くなって、体力を消耗する。外湯は深夜閉じたり、悪天候で行くのが難しいこともある
加水・循環ろ過無し、ぬる湯であること	加水・循環ろ過を行うと湯が薄くなり、効能が落ちる(ただし、強酸性泉で循環湯の例はほとんどない)。湯が熱過ぎると痛みの他に熱さによる苦痛も加わって、長時間入るのが難しくなる
真湯の風呂かシャワーがある	湯の刺激が強すぎて肌荒れを起こしてしまう場合には、真湯をかけて効果を落とす必要がある。真湯の風呂またはシャワーがあった方が良い
露天風呂は不要	自室からの距離がより遠くなる。風呂が汚れていることがあり、入るのに手間がかかる。強酸性泉湯治は痛みを伴い、外の風景を眺めている余裕はない
自室が十分冷やせること	多くの温泉地は冷涼な環境で、エアコンはもとより扇風機もないことがある。熱い温泉に浸かった後は暑苦しくなるので、最低限、扇風機があると良い
水が十分飲める環境にある	湯治で多く汗をかくため、水分補給が不可欠である。その地域ならではの天然水を飲むことができれば理想的である
布団は敷いたままで良い	朝食後に布団をしまってしまう宿もある。入湯後や食事後の休憩のためにも、布団を敷いたままにしておきたい

食事を控えることができる	食事は控えめの量で良い。湯治中はあまり大量の食事ができないし、湯治にふさわしい節制ある食事を摂るようにしたい
一人泊ができる	繁忙期に一人で温泉宿に泊まるのは難しいことがある。素泊まりにするか、Webサイト経由ではなく、直接問い合わせれば一人泊ができることがある
安価に利用できる	何回も宿泊する必要があるため、高額を払い続けることは難しい。一般に、源泉近くにある古くて小さい宿は安く泊れることが多く、泉質も良いため、湯治に向いている

(注) 筆者作成。

ば、一般的な湯治にも向いていると考える。

5 今後の課題

週末湯治の今後の課題について述べる。

(1) 効能の強い温泉地・移動手段の探索

効能の強い温泉の場所と行き方を探索する必要がある。皮膚病に効くという話は多くの温泉地で聞かれるが、実際の患者視点で語られているものは少ない。より詳細に調査を行い、週末湯治用として使える温泉地を探す必要がある。また、酸性泉は存在する地域に限られ、多くが山中にあり、行くのが困難であることも多い。合理的な方法で安価に行く手段を検討していく必要がある。

(2) 弱アルカリ性泉(石油採掘由来)の可能性

アトピー性皮膚炎のための湯治には二通りのパターンがあると考えられる。一つめは強酸性泉を用いた湯治であり、二つめは北海道豊富温泉(pH7.7)のような油混じりの弱アルカリ性泉を用いる湯治である。こうした温泉は、乾癬に効果があると言われ、温泉地近くに移住した者もいるという。

ただし、豊富温泉での湯治は長期滞在が必要という意見が多く、週末湯治には向いてい

ないと思われる。しかし、豊富温泉の有効性は今や多くの人から語られ、証言をまとめたルポ¹¹⁾も出ている。まずは一度、訪問して効果を確認し、症状改善が期待できるならば、類似した泉質の温泉地を探してみるのが良いと考える。

(3) 組み合わせ利用パターンの検討

豊富温泉のように強い効能で、泉質は極端に異なる温泉と強酸性泉を組み合わせ利用することも考えられる。例えば、初日は強酸性泉に入り、上がり湯として翌日に中性、弱アルカリ性泉に入るやり方である。

例示するなら、蔵王温泉(強酸性泉)と同じ山形県の羽根沢温泉(石油採掘由来の弱アルカリ性泉, pH8.4)のような組み合わせである。初日に強酸性泉で皮膚の殺菌を行い、翌日に油混じりの弱アルカリ性泉に入ること、強酸性で荒れた皮膚を保護するといった利用パターンが考えられる

(4) 患者にとって正確な情報を得る

湯治のための情報収集で、インターネット検索は有力な情報源であった。特に2ちゃんねるや個人の入湯体験を記したブログは患者の本音が書かれていて有用であった。

一方で、旅行雑誌の記事を当てにすることは難しい状況であった。あまりに多くの温泉地の効能欄に「慢性皮膚病やアトピー性皮膚炎」の記載がなされ、真に必要な情報が埋もれているからである。そこで、自ら温泉分析書を読み解いて、自分に対して効果があるかを事前に推定する、温泉リテラシーが必要になってくると考える。

そのためには、温泉関係の学会が発行する雑誌や書籍、温泉療法医などが著わしている温泉医学関係の書籍などを参考にし、かかりつけの医師がいるのならば、医師によるアドバイスをすることも考えられる。

(5) 個人差を考慮する

ある患者の温泉評価が全ての患者に対して適切とは限らない。患者の症状は多様で、対症法も多様になるからである。例えば、筆者

が泊まった蔵王温泉のある宿では、女将の息子がアトピー性皮膚炎患者ということがあった。もし筆者が蔵王温泉に住んでいたら、そのようなことは考えられない。おそらくその息子は、筆者とは異なる原因で異なる症状が出ていると推測できる。

個人による違いを考慮せず、これらの症状がどれもアトピー性皮膚炎として一括りにされていることが、問題を大きくしている。同じような疾患を抱える者であっても、個人差を考慮して議論することが必要である。

(6) 情報交換の場を作る

そこで、患者同士が事例を共有し、ノウハウを蓄積していく場を作る必要がある。豊富温泉では講演会「アトピーフォーラム」が毎年開催され、湯治を推奨する医師や研究者が講演を行い、どのような効果が期待できるのか、他の温泉との違いについて情報交換を行っている。また、豊富温泉のホームページ¹²⁾では、湯治者の体験談や宿泊、入浴施設に関する情報、アクセス情報などがまとめられている。

同じような場を作ることは豊富温泉だけでなく、他の温泉地でも可能なはずである。単一の温泉地だけでなく、多くの温泉地が集まった総合的な湯治体験をまとめた場を作り、情報交換をすることが考えられる。

(7) 湯治の効果を記録する

草津の時間湯など実際に湯治を行っている場で経年変化を調査し、どの湯がどのような症状に効果があるのか、効果を出すために必要なことは何かを特定することが必要である。多種多様な症状の者が、多種多様な湯で湯治した事例を記録し、積み上げていくことが、今後の湯治を支える場には求められる。

6 おわりに

本稿では、蔵王温泉から始まった5年間に及ぶ週末湯治の実践と結果及び課題について考察した。強酸性泉での週末湯治を定期的に続けることで、実際に効果が出ることを実

験を基に示すことができた。何より筆者自身のQOL (Quality of Life) を上げ、温泉通いという新しい趣味を手に入れることもできた。

長期滞在湯治が難しい今日の日本社会において、週末湯治は有用な現実解の一つである。週末湯治を普及させることで、健康を回復する者が増え、かつ温泉地本来の湯治場としての機能活性化に貢献できれば幸いである。

注・参考文献

- 1) 蔵王温泉観光協会ホームページ (<http://www.zao-spa.or.jp>)。
- 2) 温泉@2ch掲示板 (<http://hello.2ch.net/onsen>)。
- 3) アトピー@2ch掲示板 (<http://wc2014.2ch.net/atopi>)。
- 4) 温泉備忘録 (<http://jake.cc>)。
- 5) 石川理夫 (2007) : 「セカンドライフに活かす温泉のこ・こ・ろ第89回 強酸性泉は日本の温泉のお宝」 (http://www.slownet.ne.jp/sns/area/travel/reading/hot_spring/200707250907-9246123.html)。
- 6) 別府温泉 (明礬温泉) 薬用入浴剤 湯の素 (<http://www.yunomoto.com>)。
- 7) kkのブログ オーディオ三昧な日々 (2009) : 「玉川温泉でのアトピー治療 (激痛)」 (<http://ameblo.jp/k-kichi/entry-10303090161.html>)。
- 8) グリチロンの効能又は効果は、慢性肝疾患における肝機能異常の改善、湿疹・皮膚炎、小児ストロフルス、円形脱毛症、口内炎 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 医薬医療機器情報提供ホームページより)。
- 9) 時間湯探求会編 (2010) : 『そろって三分。時間湯の伝統と現在』 NPO法人草津温泉時間湯を守る会、123～208頁。
- 10) JRバス関東 新宿～伊香保・草津温泉 (<http://time.jrbuskanto.co.jp/bk040450.html>)。
- 11) 門脇啓二 (2014) : 「ルポ アトピー患者がつどう温泉」三五館、229頁。
- 12) 豊富温泉 ミライノトウジ (<http://toyotomi-onsen.com>)。

タイ北部・メーホンソン県における温泉観光開発

Tourism Development with Hot Spring Facilities at Maehongson Prefecture, Northern Thailand

浦 達雄* 小堀 貴亮** アナウッド・チョサップ***
パンティラー・シンタイポップ****

Tatsuo URA Takaaki KOBORI Anawut CHOOSUP
Pantira SIGTAIPOB

キーワード：タイ (Thailand) ・メーホンソン県 (Maehongson prefecture) ・

開発 (development) ・温泉観光 (spa tourism) ・経営動向 (business trend)

1 はじめに

(1) 研究の背景

現在、タイには200カ所を超える温泉地が成立している。その分布状況はタイ北部・バンコク周辺・タイ南部(マレー半島)に立地しているが、その過半数はチェンマイを周辺としたタイ北部に位置している(図1)。

本研究では、タイ北部、特にメーホンソン県における温泉を調査対象として取り上げた(図2)。メーホンソン県はミャンマーとの国境をなす県で、自動車交通の場合、そのアクセスはあまりよくない。しかし、国境地帯に位置するため、環境そして経営者を含めて個性的な温泉施設が立地することで知られる。

ところで、本研究は「タイにおける温泉観光開発」をテーマとした一連の研究の一部分を構成するものである。これまでの研究では次の地域を事例として実態報告を行った。つまり、サンカンペーン(浦・小堀他 2012)・チェンマイ周辺(浦・小堀他 2013)・チェンライ県(浦・小堀他 2014)である。

これまで3回に及ぶ温泉調査において、温泉の立地区分では国立公園立地型と田園立地型、経営者のタイプでは公共型と民間型に分類出来ることが判明している。一連の研究姿勢はまず現地調査を行うことである。現地調

査によって温泉施設の経営動向や観光客の実態把握に努めた。したがって、今回の報告はその一部分を構成するもので、将来的にはタ

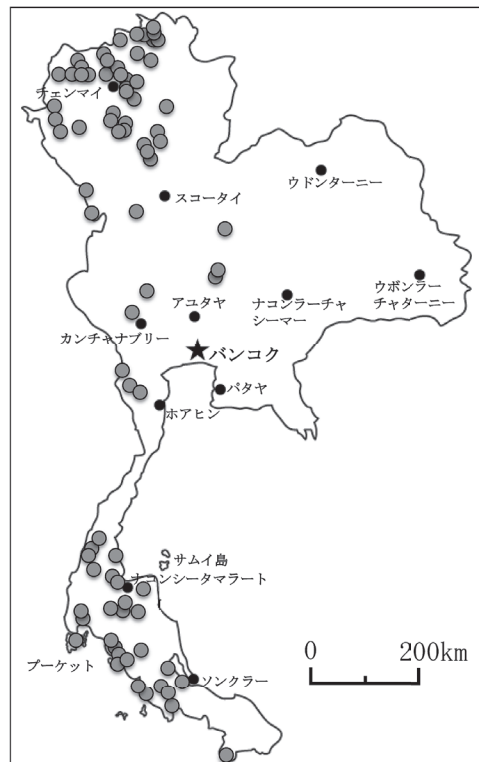


図1 タイにおける温泉地の分布
(注) 高橋(2008)を改図して小堀貴亮作成。

*大阪観光大学 (Osaka University of Tourism) ** 共栄大学 (Kyoei University)

ラチャプリユック大学 (Ratchapruerk University) * パンティラー旅行社 (Pantira Travel Agency)

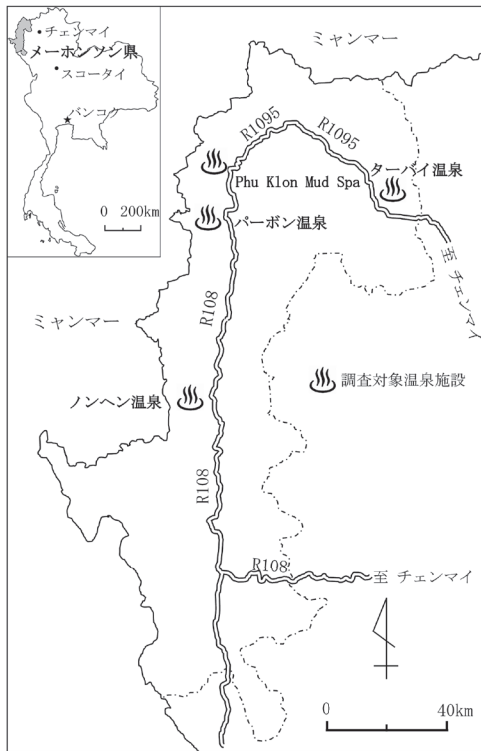


図2 メーホンソン県の調査対象温泉施設
(注)北タイランド(ROAD WAY)により
小堀貴亮作成。

イにおける温泉観光開発の実態や方向性を明確にする予定である。

(2) 従来の研究成果

日本の観光地理学の分野では、タイにおける温泉観光開発に関する論文はその数が限定される。その代表的な論文は浦達雄・小堀貴亮などによる一連の成果である。

その調査手法は現地での野外調査、経営者(またはマネージャー)・観光客に対する聞き取り調査が主体となる。テーマは温泉観光開発で、以下の地域で調査を行った成果がある。サンカンペーン(浦・小堀他 2012)・チェンマイ周辺(浦・小堀他 2013)・チェンライ県(浦・小堀他 2014)である。

普及書・機関誌としては、前者には高橋(2008)、後者には松下(2001)・浦他(2011)・徳本(2014)などの著作がある。旅行記としては、浦(2011)・浦(2012)・浦(2013)・浦

(2014)などの成果がある。なお、タイ北部の温泉の分布状況を明確にした図面として地質調査所(1987)がある。

(3) 研究の目的と方法

研究の目的は、タイ北部のメーホンソン県における温泉施設を事例として観光開発の実態を把握することである。

調査方法は文献調査・野外観察・聞き取り調査などである。文献調査は観光地図の読図・報告書や旅行記の解読、野外観察は現地調査・ラフマップの作成、聞き取り調査は経営者・マネージャー・観光客・関係者などである。聞き取り調査は経営者の不在もあって、不明な部分もあった。そのため、経営数値は概要の把握に努めた。

2 メーホンソン県における温泉の概要

高橋(2008)によれば、メーホンソン県には13カ所の温泉がリストアップされ、中でもパーイ郡には8カ所の温泉が成立している。今回の調査では4カ所で温泉調査を実施した。立地的には、国立公園立地型1カ所・田園立地型3カ所である。経営サイドは公共系3カ所・民間系1カ所となる。マッドスパ(mud spa)、川湯など個性的な温泉が多いことが特色と言えよう。

なお、メーホンソン県の県庁であるメーホンソンは空港を備えているが、陸上交通だと、チェンマイから北周りで242km・6時間、南回りで350km・5時間となり、かなり遠方に位置している。特に北回りは山道が大半で、その行程はきついと思われる。

3 ターバイ(Thapai)温泉

(1) 開発の概要

ターバイ温泉はメーホンソン県パーイ郡に位置し、パーイ郡は温泉集中地区として知られる。ターバイ温泉は主要道路1095号線から少しのところ立地している。国立公園立地型の温泉で、ファイナムダン国立公園に属する。経営は公共系となる。

温泉は河川(ナムメータイ川)の源流で湧出し、温泉池がある(写真1)。温泉の近くに、戦時中日本軍が関係し、いまでは観光地になったメモリアルブリッジ(写真2)があるので、このブリッジとセットで温泉を訪問する若者が多い。昔から村民が温泉湧出を確認しており、動物が成分のある土(塩分を含む)を食べていたことに起因する。以前は粗末な浴槽だったが、1993年から温泉施設の整備を開始した。現在の浴槽は2011年に整備したものである。とはいえ、河川の中の簡易な浴槽で、いわゆる内湯ではなく、水着着用の露天風呂が主体となる(写真3)。2004年に国立公園として追加指定された。

(2) 温泉・宿泊施設関係

主な付帯施設は源泉池(見学用)・河川の露天風呂・脱衣場・売店・ビジターセンター・キャンプ場などからなる。温泉施設は整備したとはいえ、自然のままであり、雨天で水量が増えた場合は利用出来ない。宿泊施設はキャンプだけでテントは300張、小型225B(B=パーツ。1パーツ=約3.3円。以下、Bと表示)・大型300Bとなる。

(3) 経営数値

現在のスタッフは10人程度を数える。国立公園なのでゲートでは車30B・バイク20B・タイ人40B・外国人200Bを払うことになる。ビジターセンターのスタッフの話によれば、国立公園全体(3カ所)の利用客数は1,000万人/年を数え、この温泉施設には10万人の入り込みがある。利用客はタイ人10%・外国人90%で、欧州からの若者が多い。しかし、軍事政権になって、外国人の利用客は減少している。

利用客は100人~500人/日で、やはり冬の時期が多い。11月から1月がピークとなる。見学中、利用客を見ると、バイクで来たドイツ人カップル、イスラエルからの5人組(男2人・女3人)、タイ人男2人組でいずれも若者。全員が水着に替えて入浴をしていた(写真4)。

4 プークロン(PHU KLON)・マッドスパ

(1) 開発の概要

マッドスパは主要道路108号線から少し奥まった田園地帯に立地する。観光地であるフィッシュケープに近接していることでも知られる。開業は1995年で、経営者はタイ南部のソククラ出身となる。彼の前職はガイドで、仕事でタイ国内を回っていて、最終的にこの地を選定した。土地は200ライ(1ライ=1,600㎡)で、源泉は1995年5月4日に掘削に成功した。現在の源泉は2本で、泉質は硫黄泉系となる。ただし、浴槽では硫化水素の匂いはしない。源泉の深度は100m程度、泉温は70℃と140℃で、温泉泥は地下2mのものを使用している(写真5)。

開業に当たって経営者はフランスで4年間にわたって、泥マッサージの研修をした。開業理由は村の産業振興で、特にカレン族に仕事を与えている。泥マッサージは2000年に開始し、その後、商品化を行って、現在、チェーンマイで支店を開業している

(2) 温泉・宿泊施設関係

主な付帯施設は泥マッサージの施術室(写真6)・売店・プール(100人収容)(写真7)・個室浴場(写真8)・シャワールーム・コテージなどとなる。個室浴場は、1室(2浴槽付帯)のみで、現在、7室の個室浴場を建築している。

(3) 経営数値

現在のスタッフは20人程度を数える。利用客はオフの雨季では50人程度/日、オンの乾季では300人/日で、1万人/月を数える。12月5日の国王の誕生日、そして1月などにピークを迎える。入浴というよりは泥マッサージの施術組が多い。

利用客は外国人が大半で、内訳はフランス・スペイン・ドイツ・オランダ・ポーランド・中国・ベルギーからが多い。日本人は少ない。入浴料金は60B(1人)で、泥マッサージは足20B(15分)・顔80B(15分)・全



写真1 ターバイ温泉の源泉



写真2 メモリアルブリッジ



写真3 ターバイ温泉の露天風呂



写真4 ターバイ温泉の利用客



写真5 マッドスバの源泉



写真6 マッドスバの施術室



写真7 マッドスバのプール



写真8 マッドスバの個室浴場

身700 B (60分)となる。その他の施設として売店があって、泥関係の商品が売られている。トイレは2 Bとなる。

5 パーボン(Phabong)温泉

(1) 開発の概要

パーボン温泉は主要道路108号線沿いの田園地帯に位置している。経営は公共系となる。この付近は第二次世界大戦中、日本軍が訪問して、寺院に泊まり、道路を整備した。その際、温泉を利用したのである。鹿・牛・鶏などの動物が塩を含む砂を食べていたので、村人はすでに温泉の存在を確認していた。

第二次世界大戦後の1953年、総理大臣夫妻が仕事でメーホンソン県を訪問した。大臣が仕事の際、奥方が温泉を見学し、社交の一環として3,000 Bを寄付したので温泉の整備が進むことになった。しかし、温泉は自然の状態であった。

温泉施設の土地は当初1ライだったが、その後3ライに拡大した。1992年に源泉池を整備し、現在の温泉施設が完成した。温泉は地下1 mから湧いており、泉温は64℃で、外に出ると42℃になるらしい。

その後、投資は数度行い、その額は200万 B・140万 B・60万 Bなどを数える。温泉施設を囲む塀は60万 Bの投資で、2014年には500万 Bの投資でプールが完成した。投資者は国・県・旅行会社などで、主に公的資金となる。

(2) 温泉・宿泊施設関係

温泉施設は公園を構成し、付帯施設として遊歩道・プール(写真9)・温泉池(写真10)・個室浴場(写真11)・事務所などが点在している。個室浴場は16ヵ所、その他に大浴場1ヵ所(水着着用)(写真12)がある。

宿泊施設は無いが、テントが存在する。200張ほど用意し、大型100 B・小型50 Bとなる。温泉の入湯料金は50 Bで、大浴場は500 Bとなる。現在、村の経営のため、地元

住民のかけ湯は無料となる。道路を挟んだ側に、ヘルスツーリズムセンターがある。健康施設の器具を具備しているが、利用は冬季に限定されている。

(3) 経営数値

新規開業当初の年商は30万 Bを数えたが、現在は、冬季のみ営業を行っている。利用客が安定的に来ないからである。往時の利用客のオンシーズンは冬の寒い時の11月から2月で、ピークは12月となる。現在、12月と1月に温泉施設を経営し、他の月は経営していない。見学だけである。

(4) その他

温泉施設の周辺ではゲストハウスが点在している。村のリーダー(タイヤイ族)が経営するゲストハウスは2008年に開業した。温泉まで徒歩で5分と近い。客室は26室で、レストランを付帯する。もともとは田園地帯であった。宿泊料金は500 B、1,200 Bなどを示す。

県など公務員の利用が多く、1泊が主体だが、3泊の連泊客も見られる。ゲストハウスの屋号はピッサボン(PICHA POAN)で、娘の名前となる。タイでは子供の名前を利用した屋号が多い。

6 ノンヘン(Nong Haeg)温泉

(1) 開発の概要

ノンヘン温泉は主要道路108号線沿いの田園地帯に位置している。経営は公共系となる。温泉施設の開業は新しく、2011年にクンユエン村が開発し、現在、半官半民で経営を行っている。敷地面積は5ライを数える。

源泉は2ヵ所で田園の中から湧出している(写真13)。深度は1.5mで、75℃・65℃、その他に25℃の源泉がある。雨季には竹の子を蒸しているが、温泉卵は1年中楽しめる。温泉は60年前から湧いており、やはり動物が塩分を含んだ砂を食べていた。

(2) 温泉・宿泊施設

主な付帯施設はプール(写真14)・シャワ

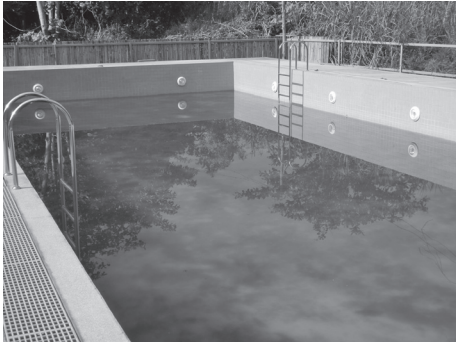


写真9 パーボン温泉のプール



写真10 パーボン温泉の源泉



写真11 パーボン温泉の個室浴場



写真12 パーボン温泉の大浴場

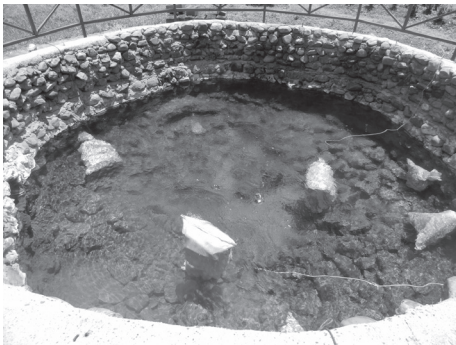


写真13 ノンヘン温泉の源泉



写真14 ノンヘン温泉のプール



写真15 ノンヘン温泉の個室浴場

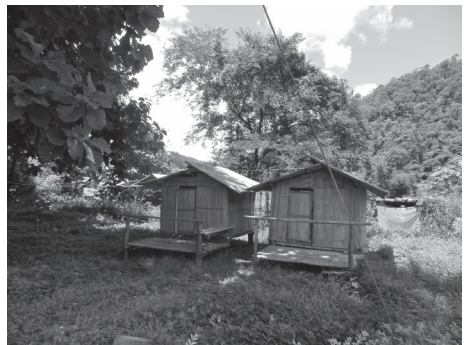


写真16 ノンヘン温泉のコテージ

ールーム・個室浴場(写真15)・コテージ(写真16)となる。個室浴場は6室で、現在8室を整備している。シャワールームは8室を数え、これはプールの利用客が使用する。コテージは4部屋あって1部屋(1~3人利用)は200Bである。キャンプ場も整備され、冬季の利用が多い。

(3) 経営数値

現在のスタッフは4人で、村からの出向者が含まれる。年商は50~60万Bを数え、営業時間は8時30分から19時までとなる。利用客は雨季の少ない時で5人~10人/日、冬季の多い時で100人、200人~300人/日の利用がある。

なお、温泉の利用料金はタイ人20B・子供10B・外国人100Bを数える。利用客はタイ人50%・外国人50%で、外国人はフランス・イギリス・オランダ・ベルギーなどが多い。若者がチェンマイからバイクでやってくるという。

事務所の統計をみると、1年間の利用客は5,000人から6,000人で、2013年9月120人・同10月は469人・同11月586人・同12月1,500人を数え、冬季(乾季)になると利用客の数が増加している。

タイ語の温泉分析書もあって、フッ素9.8(mg)と書いてあった。入浴した経験から見ると、やはり硫化水素臭がした。

7 むすび

以上、タイ北部・メーホンソン県において、4軒の个性的な温泉施設を事例として、その開発の実態と経営状況の概要を把握した。その結果、次の点が明確になった。

- ① 温泉施設の立地は、国立公園立地型・農村立地型に分けられる。いずれも自然環境に優れている。
- ② 温泉は1ヵ所が掘削自噴だが、他の3ヵ所は自然湧出となる。
- ③ 温泉は硫黄泉系で、高温で湧出量が多い。
- ④ 村人は、当初、かけ湯として温泉を利用

した。

- ⑤ 宿泊施設はキャンプ場が中心だが、一部ではコテージの整備、付近でゲストハウスの整備が進んでいる。
- ⑥ 温泉施設は露天風呂(水着着用)やプールが主体だが、3ヵ所の温泉施設では日本流の個室タイプの浴場が整備され、裸入湯が可能である。ただし、浴槽はバスタブで、一人入浴となる。
- ⑦ 経営者のタイプは様々だが、政府系(国立公園)・公共系(地元の村)・民間系の3系統となった。ただし、リーダーやスタッフには少数民族のタイイェ族が目立った。
- ⑧ 年商など経営数値は2軒だけ把握したが、売上は順調と思われる。ただし、1軒は利用客の減少で、営業は12月と1月だけとなる。
- ⑨ シーズンは冬季(12月と1月)がオンシーズンで、雨季(5月~10月)がオフシーズンとなる。
- ⑩ 川湯、泥マッサージなど个性的な温泉施設が多い。ただし、川湯は雨季での利用は難しい。
- ⑪ メーホンソン県は国境地帯に位置し、チェンマイから車で行く場合、山道を通るので、欧米人で興味本位の若者の利用が多い。
- ⑫ 今後の課題として、温泉施設の継続的な調査を行うことで、タイにおける温泉地の一般的な傾向の把握、出来れば、入湯客に対するインタビュー調査などを実施したい。

付記

本研究は、大阪観光大学とタイ・ラチャブリック大学との「研究及び教育上必要とする分野での交流に関する覚書」による共同研究(テーマは「タイにおける温泉観光開発」)の研究成果の一部である。ところで、ラチャブリック大学は、2014年6月19日、カレッジから大学へ昇格をした。

なお、現地調査は2014年8月21日と22日に実施した。写真は浦達雄の撮影となる。作図は小堀貴亮が行った。タイの温泉は、露天風呂の場合、水着着用で、日本流の裸入湯の習慣はない。個室浴場もバスタブが大半で、1人入湯が主流となっている。

謝辞

各温泉施設における聞き取り調査の際、関係者やスタッフの皆さんから、大変親切に対応をして頂きました。ここに記して謝意を表します。

参考文献(発行順)

- 地質調査所(1987):「タイ北部における温泉地の分布」同所、1枚。
- 松下正弘(2001):「タイの温泉(ナムローン)」温泉(日本温泉協会)・第69巻4号(通巻749号)(2001年4・5月合併号)、26～29頁。
- 高橋由紀夫(2008):『秘湯天国タイだもーん』ゑる文社、190頁。
- 浦達雄(2009):「湯遍路旅日記ーアジア・太平洋編ー」観光&ツーリズム(大阪観光大学観光学研究所・所報)・第14号、12～23頁。
- 浦達雄他(2011):「タイ・カンチャナブリーの温泉」温泉(日本温泉協会)・第79巻1号、3～5頁。
- 浦達雄(2011):「U R Aの湯遍路旅日記2010ー台湾・中国・タイに行くー」観光&ツーリズム(大阪観光大学観光学研究所・所報)・第16号、11～23頁。
- 浦達雄・小堀貴亮他(2012):「タイ・サンカンペーン温泉における温泉観光開発」温泉地域研究・第18号、25～30頁。
- 浦達雄(2012):「U R Aの湯遍路旅日記2011ー中国・タイに行くー」観光&ツーリズム(大阪観光大学観光学研究所・所報)・第17号、11～25頁。
- 浦達雄・小堀貴亮他(2013):「タイ・チェンマイ周辺における温泉観光開発」温泉地域研究・第20号、137～142頁。
- 浦達雄(2013):「U R Aの湯遍路旅日記2012ー北京・山西省・チェンマイに行く」

- 観光&ツーリズム(大阪観光大学観光学研究所・所報)・第18号、18～31頁。
- 徳本稜(2014):「タイ王国北部温泉紀行」温泉第82巻2号、32～33頁。
- 浦達雄・小堀貴亮他(2014):「タイ北部・チェンライにおける温泉観光開発」温泉地域研究・第22号、29～34頁。
- 浦達雄(2014):「U R Aの湯遍路旅日記2013ー中国・タイ編ー」観光&ツーリズム(大阪観光大学観光学研究所・所報)・第19号、11～21頁。

シンポジウム

湯治場の再生—現代の湯治場の意義を考える

- コーディネーター : 石川理夫 (温泉評論家)
 パネリスト : 堀 是治 (山形県温泉協会会長)
 : 木村裕吉 (大蔵村観光協会会長)
 : 山村順次 (千葉大学名誉教授)

石川：それではシンポジウムを始めたいと思います。タイトルにあります「湯治場」という言葉は何か古い、遠い昔の出来事のように思われるかもしれませんが。その一方では、プチ湯治、ミニ湯治といった形で今日、湯治というものが非常に多方面から、これまで湯治を受益していた層とは違う方たちから評価され、期待をされている状況があります。そういう意味でも、山形県でも伝統的な湯治場であるこの肘折温泉で開く研究発表大会のシンポジウムとして、湯治場の本質的な意義というものをもう一度再評価し、見直していきたいと考えます。

それでは早速、パネリストの皆様から最初にそれぞれのお立場からご意見なりご報告を頂きたいと思います。最初に山形県温泉協会会長の堀さんから、肘折温泉も含めてとても多様な温泉場を持つ山形県について、全般の概況、観光状況も含めてお話を頂けますか。

山形県の温泉概況について

堀：ご紹介頂きました堀です。山形県の温泉の現状については平成24年度の資料を皆さんにお渡ししてあります。まず山形県の温泉地の数として、171と書いてありますが、全体としては230カ所です。今利用している温泉地が171カ所、未利用が59カ所となっています。

山形県も結構古い温泉場があり、江戸時代の末には29カ所の温泉場がありました。一番古い温泉場としては「蔵王（高湯）が西暦110年の開湯」という伝承もありますが、肘折温泉は1200年程の歴史があると言われて

います。また、元は県内41市町村に、それが合併によって現在は35市町村全部に温泉場が一つは存在します。竹下内閣のふるさと創生資金1億円のお金を頂いた関係上、230カ所という多くの温泉地が出現した訳です。

源泉の数は現在422カ所です。これにプラスする源泉があるのですが、ちょうど山形県の委託で平成11年から15年の間に集中管理を重点化しましたので、今、集中管理をしているところが11カ所あり、県の補助金制度を利用しています。422カ所の中で、自噴しているのが179カ所、動力揚湯が243カ所あります。

湧出量は大体毎分5万リットルで、自噴している所では正確に測ることができないのですが、これ以上の湧出量を誇っております。それから、私たちも平成6年から7年にかけて県内における源泉調査を県の委託で実施しました。そのとき温度や湧出量などを測ったのですが、湧出量に関しては難しく測れない所もありました。自噴している所を測るための指導も行ってきましたけれど、それが一番大事なことだと思っています。

宿泊施設利用に関しましては、利用している温泉地のうち138カ所の中に宿泊施設が343軒、日帰り温泉施設や共同浴場が152カ所あります。年間宿泊利用者数が246万人、宿泊施設の収容定員数ですけど大体3万人ということで、年間の利用者数は1,442万9千人ほどになります。

肘折温泉は国民保養温泉地に指定されていますが、山形県には5つの国民保養温泉地が

あります。昨年度から、国民保養温泉地計画の見直しが始まり、5年に一回の見直しをすることになりました。国民保養温泉地は全国で91カ所あり、山形県で一番古いのが蔵王温泉で、昭和33年に指定されました。北海道が15カ所、長野県が7カ所で、その次に山形県と群馬県と鳥取県に各5カ所ずつ国民保養温泉地があります。このように、山形県は温泉を主体とした活動を十分やっているとと思います。

大体こういうことですが、私たちの一番の支えになっている山形県温泉協会の歴史を申し上げたいと思います。山形県温泉協会は1924(大正13)年6月7日に創立し、今年でちょうど90周年になります。私たちの大先輩が目標としていたことは、「温泉を愛し、その資源を社会福祉に寄与させるために、温泉の科学的研究、温泉の保護・開発と温泉利用の適正化を図り、もって温泉県山形の発展に寄する」とあり、すごい文章でもって山形県温泉協会を創立したのです。当時の山形県下の代表者34名ほどが山形県議会に集まって作りました。会長は昔は全部警察なのですね。ですから、山形県の警察部長さんが初代会長になり、副会長としては山形県の衛生課長がなりました。

以上が山形県の温泉の概要です。

石川：ありがとうございます。東北で県の温泉協会として山形県が一番古く、そして宮城県と近年では福島県に県温泉協会があるということですね。

山形県の温泉概況についてお話を頂きましたけれど、今回の研究発表大会の午前中の自由論題の中に、湯治場を考える幾つか魅力的な話がありました。例えば連泊型、いわゆる滞在型ですね。あるいは自炊場がある、療養型の要素があるなど、そういう温泉場は肘折温泉以外では山形県にはどんな温泉地があるのでしょうか。

堀：現在では、「湯治」というくり方が難しいのですけれど、最上地方の赤倉温泉、そ

れから瀬見、蔵王温泉なども元は湯治場であって、本当に保養とか療養というか、やはり病気を治すための方が多かったですね。肘折温泉でも、骨折した方がだいぶ長く湯治をして、治ってお帰りになったり、温泉に入ってから、杖をついて来た方が杖を忘れて帰るほどの効果があったといわれています。

蔵王の場合ですと、昔、農作業をしていた人が虻に咬まれたが、抗生物質がなくても風呂に入らないで掛け湯をして、1週間で治して帰ったのです。また戦後、疥癬の皮膚病の方が、風呂に入ると、周りの人が団扇で扇ぐくらい痛くて痛くてどうしようもなく、本当に見ていて可哀想な方が、それも2週間くらいで治って帰って行きました。1週間くらい経って客室を掃除すると、畳の上に治った皮膚の滓が気持ち悪いくらい落ちていたというようなことがありました。今は状況が変わり、随分良い薬が出てきて皮膚病の温泉療法も変わってしまいましたが。

石川：ありがとうございます。つまり、山形県における湯治、特に療養型という旧来のあり方は非常に限られてきた、それからいわゆる湯治場と言われる温泉地も、どちらかというと庄内地方よりは内陸部のこちらの方にまだ残っているということでしょうか。今神温泉のように格別な療養温泉地もありますね。

続きまして今大会では大変お世話になっている肘折温泉の木村さんから、肘折の湯治場なり、温泉の背景や歴史も含めまして現状を報告して頂けますでしょうか。

肘折温泉の歴史と滞在型の空間構造

木村：それでは、私の方から肘折温泉についての紹介と湯治宿泊の変遷について、簡単に紹介させていただきます。3枚綴りの大蔵村観光協会の資料があると思いますので、それを手元に置いていただければ幸いです。

湯治場・肘折温泉の紹介と湯治期間の現状・変化ということで、若干の紹介をします。肘折温泉は、歴史的には江戸時代の山岳信仰

の場であった出羽三山の拠点である月山の登り口にあり、信仰登山の人々が宿泊する湯治場が始まりということです。湯治期間の21日間に多くの信者が泊まったという歴史文書もあります。

肘折の自然について申しますと、この温泉地は標高290mで、思ったより低いのですが、ただ全国でも温泉地で一、二を争う豪雪地帯と言えます。平成25年もそうだったのですが、過去30年で最大積雪量を観測したことが2回あり、4m14センチというのが最大積雪になっています。酸ヶ湯がたいてい一番なのですが、たまに肘折が一番になる時があります。

文化的にはやはり湯治文化が残っていて、しかも湯治場の風情がある全国でも珍しい温泉地ではないかと思っています。

今でも湯治のスタイルは継承されていて、宿泊客の半分近くは滞在型が占めております。それから旅館に売店を置かないことを基本的に合意しており、「旅館はお部屋、道路が廊下、街路の商店が売店」というコンセプトでこれまでやって来ました。

それから肘折の温泉を語るときに外せないのが、肘折三十六人衆、肘折契約講です。こうした契約はかつてどこにもあったと思いますが、温泉を守ってきた組織でもあります。したがって、契約講イコール今の肘折温泉組合という、温泉の権利を持つ方の集まりでもあって、現在三十三講ですけれど、その行事を毎年12月に行っています。

もう一つ、東大の下村彰男先生の「わが国における温泉地の空間構成に関する研究」という論文を見られた方も多いと思いますが、数年前に出会い、肘折温泉が保養型、滞在型の温泉地としての空間構造を持っているのだと改めて認識したところです。

次に、地域づくりについて紹介したいと思います。平成元年に国民保養温泉地に指定され、翌々年に国民保健温泉地に指定されました。その間に「元祖湯治村」計画を作ってい

ます。この際に大変お世話になったのが、今いらっしゃる山村先生と石川先生で、いろんな調査をし、レポートをまとめていただきました。それが今にも継承されています。

平成19年には「開湯1200年」を祝いましたが、同時に「肘折の灯」という東北芸術工科大との共同で灯籠の映像鑑賞会を実施し、今年で8年目になります。現在は地元の青年団が積極的に協力しています。平成21年には、肘折小中学校が閉校することで、映画「湯の里ひじおり～学校のある最後の一年」を製作し、上映していただきました。

それから、平成20年から2年間で国の「地方の元気再生事業」に取り組み、さらに平成23年度からは国認定「地域産業資源活用事業」にも取り組みました。現在、「カルデラの中にある秘境肘折温泉の特性と自然環境を活かした現代版湯治システム開発～肘折温泉ワールドの構築～」というテーマで取り組んでいます。その他、ファンクラブ組織を立ち上げました。

肘折の宿泊形態の推移

現状の変化については、御多分に漏れず延宿泊客数が低下しています。客の発地別構成を見ると、県内の客と県外の客の割合は、今は6：4になっており、さらに県外の客が増えていると感じています。県外の客の状況を見ると、隣県の特に仙台市を中心とした宮城県が四分の一、次いで東京、千葉、神奈川、埼玉などの首都圏です、次いで茨城、福島、秋田、新潟県となっていますが、最近の傾向として関西の大阪、京都、奈良、兵庫からの客が目立ってきている印象を持っております。

宿泊形態別に見ると、湯治の客と旅籠の客の割合は、以前は7：3程でしたが、現在は4：6で、湯治のお客様の割合が半分を下回っています。泊数別の割合は、平成20年までのデータしかないので、最盛期の3分の1程度になっています。二泊以上の割合が66.5%で3分の2くらいを占めています。更

に三泊以上は41.8%で、まだまだ二泊、三泊以上が多い状況でした。

1人当たりの泊数で見ると、前は2を超えていましたが、平成21年データによると1.78で、矢張り一泊二日型が多くなっていて、1人当たりの泊数は減っています。ただ、独自調査の18軒の集計を見ると、三泊以上という旅館が1軒ありまして、二泊以上もまだ5軒もあるという形で、そういう連泊、中期的な滞在の割合もまだ多い形になっています。

それから、前から補助事業を活用しながらお客様の声を取っているのですが、肘折温泉の変化についての声をいくつか紹介します。一つは「湯治場という古くさい感じがあったが、今の肘折はそういった雰囲気がなくなって良い」、「昔の肘折に比べてとても明るくなった印象があるね」と、多くの方が肘折の小さな変化に気づいてくれていることです。これは東北芸術工科大が肘折の灯の取り組みをして、2年、3年目ですか、そういう年だったので、変化が現れてきたことを感じる方が多かったのだと思います。

肘折温泉の魅力としては風情があるとか、雰囲気がよいという感想が多いのですが、その中でお客様の要望として肘折温泉はこうなって欲しい、こうなって欲しくない、という意見を拾った中で代表的な声は、「肘折温泉は全体が良い雰囲気であるので、変わらずにいて欲しい」ということでした。こういうお客様の要望があるということは、そうした声を大切にしながら今後も行かなければならないという感を強くしているところです。

最後に、「肘折温泉では現代に合った湯治スタイルを選べます」というメニューを前から作っていたのですが、今年10月に見直しをして、5つの湯治スタイルをお客様に提示しています。最も重要な一つは自炊湯治です。すべて自分で料理を作ることにして、自炊設備がある8軒の旅館が受け入れる制度です。こういった形で多様な取り組みをやって

いるのが現状です。

石川：ありがとうございました。肘折については、この後じっくり話をしていきたいと思っています。

それではお二方の報告を受けまして、特に肘折や東鳴子を含めた東北の湯治場についての観光や地域変化、温泉場の変容について長く詳しく研究なさってきた山村先生に、その観点から報告をいただけますか。

山形県の主な温泉地動向と変化

山村：私は大学院に入った当初は、まず観光温泉地について、地域的特性の比較研究を課題として東京周辺の主な温泉地を調べました。一応その動向を把握した後で、日本の温泉地発達の原点である湯治場、療養の温泉地研究の必要性を感じ、全国的な調査をする中で肘折温泉にも来ました。

日本では長期滞在する湯治場から始まり、次に、少し観光的要素を加えた短期滞在をする人たちが温泉地に来ましたが、これは保養という形態です。その後、大正時代後半から昭和初期にかけて、大都市近郊の温泉地は一気に観光地、歓楽地という流れになりました。鬼怒川温泉はその典型例です。戦後は、経済の高度成長に合わせて観光温泉地が盛況を呈することになりました。東北では第一次産業のウェイトが高く、温泉本来の湯治利用が残りましたが、徐々に観光化の波が押し寄せてきました。

先ほど堀会長から報告がありました山形県の主な温泉地の動向をまとめてみたいと思います。温泉が湧出する際に、自然湧出泉と掘削自噴泉を含む自噴泉と掘削後に人工的に汲み上げる動力揚湯泉に分けられますが、蔵王温泉は毎分4,200リットルもの大量の自然湧出、自噴泉が湧出しています。これに対して肘折温泉は掘削自噴泉が毎分1,800リットルですが、温泉地の規模からみて温泉資源性に大変恵まれています。山形新幹線に沿って規模の大きな上山、天童などの有力温泉地が分布していますが、温泉は毎分1,000リットル

前後の動力揚湯泉で、量的にも少ないのです。

これらの温泉地の宿泊客数はどうなっているか、平成7年と20年の13年間の変化を比べてみました。肘折は17万人から10万人に減っています。絶対数は少ないのですが、銀山温泉は8～9万人で安定しています。それから、蔵王温泉は温泉資源が優れており、立地的にも好条件ですが、ここでも62万人から40万人に宿泊客は減っています。

このように規模の大きな温泉地が、蔵王をはじめとして宿泊客が減り続けていることは、大きな問題です。上山は安定していて、50万人ほどの宿泊客を集めていますが、天童に至っては60万人から32万人、赤湯は33万人から13万人、温海温泉も33万人から13万人へと激減している状況があるのです。こうした時代の流れのなかで、日帰り客の誘致を進めている温泉地もあり、肘折温泉にも6,000人ほどの日帰り客が来ています。

山形県は山間地に秘湯がたくさんあるのですね。これは活かしていかなければならないというわけで、私は山奥の姥湯温泉に二度ほど行きました。一度はランプの宿の時代でしたけれど、紅葉のすばらしい環境のもとで、河原の石で囲った自然そのものの露天風呂に入るという状況でした。

今回、学会出席に山形新幹線を利用しましたが、山形県に入ってからテロップが、停車駅に近づくと、その一帯の歴史から始まって、景勝地、温泉地などの簡単なガイドを流していて、感心しました。こうした旅の客に地域案内をすることが大切です。山形県は温泉県であって、資源的に見て県全体では自然湧出を含む自噴泉が全国の10位に入っているのです。山形県の温泉地は、動力揚湯泉もありますが、自噴泉の秘湯の宿を活かしつつ今後の展開を考えることが良いと思います。

国民保養温泉地が新しく見直されている

それから、少し全体的な動向になりますけれど、山形県で国民保養温泉地に指定されて

いる肘折温泉や蔵王温泉をはじめ、銀山、湯田川、砦点などは、温泉地に求められている温泉資源、温泉情緒、温泉地の自然環境の良さを持っているので、温泉地再生の先頭に立って頑張っていただきたいと思います。

平成25年度から環境省は国民保養温泉地の見直しをしています。これまで91温泉地域、162の温泉地が指定されていますが、一部の温泉地では指定解除を求めている所もあります。新しい選定標準に合わせて最初に5カ所が新しい計画書を申請しましたが、それは北海道の豊富温泉とながぬま温泉、それから肘折温泉、白川郷平瀬温泉、四万温泉です。

国民保養温泉地指定の新選定標準の主な点は、温泉の効能が顕著である療養泉であること、温泉湧出量が利用者一人当たり毎分0.5リットル以上であること、温泉地の環境条件として、自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の観点から保養地として適していることなどが追加されました。今後の温泉の利用と保養温泉地の育成にとって、適正な指針となっています。

医学的立場から適正な温泉利用や健康管理については、指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもとに入浴方法などの指導ができる人材の配置計画、若しくは育成方針等が確立していることを求めています。また、温泉資源の保護、温泉の衛生管理、温泉の公共的利用の増進並びに高齢者及び障害者等への配慮に関する取組を適切に行うこと、さらに災害防止に関する取り組みも規定されています。

温泉地計画の策定の中に、「温泉地における温泉利用施設の整備及び環境の改善を図るため、環境大臣が国民保養温泉地ごとに温泉地の環境等に関する条件に関する温泉地計画を策定すること」、「国民保養温泉地の指定を希望する地方公共団体は、住民、事業者等の意見を聴いて、温泉地計画の案を作成し、環境大臣に提出すること」という条件を付けています。

温泉地を訪れる客の目的は多様で、温泉療養、温泉保養、温泉観光といろいろな形があります。いずれにしても温泉はまさに人々の健康のために、そして楽しみのために利用されているのです。そこで、各地域の温泉関係者は常に温泉資源を大切に守り、温泉客も温泉に入浴することに感謝して、非日常の体験をすることが欠かせません。

私は保養温泉地の再生と発展にとって、客が滞在中に訪れてほしい地域特有の景観や伝統行事等を保全し、案内することが欠かせないと思います。これまでの観光温泉地は、温泉資源そのものは素晴らしいのですが、客を集めるために新しい施設が次々にできる一方、廃業した施設が残されて温泉情緒がなくなってきました。

滞在型の温泉地づくりをするには、地域ガイドの案内のもとに、ゆったりと街を歩いてもらうことが欠かせません。冬季を除いて毎日開かれている早朝の朝市は、肘折温泉を特色付ける素晴らしい郷土景観を形成していました。近郊の農家の方々が自ら生産した農産物等を路上に並べており、素朴な雰囲気の中で客と触れ合う光景は、輪島や高山の商業化した朝市の賑わいとはかけ離れたものでした。この普段着の朝市は、滞在型の保養温泉地づくりを目指す肘折温泉にとって、最高の観光資源であると言えます。

「肘折の灯」を始めたきっかけと内容

石川：ありがとうございます。お三方からそれぞれの立場で報告をいただきました。

湯治場イコールいわゆる昔のようなかたちの療養型、という風には捉えきれなくなっているようです。現代型の療養、特にアトピーの方やオフィス労働に伴う肩こり、腰痛などに対する湯治を求める方も増えてきています。山村先生のお話にありましたように、そもそも温泉地自身が、とくに何らかの目的をもって一泊以上の滞在をする湯治場のような場所では何より温泉資源が良くなければいけません。木村さんのお話にもあり、以前に日

本温泉地域学会の研究発表にもありましたが、肘折三十六人衆と言われるような長い歴史を持ち、地域でいわばコモنز的に温泉を共同で源泉管理していく、その伝統が温泉組合として生きている。みなさんが昨日も体感されたような素晴らしい、いかにも効きそうな温泉をそれによって保っていることが、湯治場の大前提にあるかと思います。

木村さんのお話の中に貴重な客層の調査結果がありました。昔は湯治というと七日一回り、二回り、三回りですが、今はほとんど七日まで行く形は少ないわけです。しかも東鳴子や肘折を含めていわゆる湯治場では、以前は正しい言葉で「骨休め」という言葉を使っていました。体の特別な不調というより、日々の生活や労働の中で冷えたり疲れた体を湯治場で骨休めをしていく。そのために数日間以上の連泊、滞在をする。午前中の自由論題でありましたように非日常、異日常の空間で生活しながら、体調を回復させていく、そういう良さがあります。その受け皿の空間の中で、木村さんのお話にありましたように、滞在の、または湯治場肘折の持ち味を更に広げるために、いろんな取り組みをされていますが、とくに「肘折の灯」によって温泉場が明るくなったという話がありましたけれど、そのきっかけや取り組み、反応について、もう少し補足説明をいただけますか。

木村：肘折の灯の取り組みのきっかけは、肘折温泉でいろいろ調査をした、当時芸工大の赤坂憲雄先生がいらっしゃいまして、先般一緒にタッグを組んでいた研究室の森繁也さん、元役場の職員で舞踏家である方が一緒になって調査をして本を書いていたのですが、恩返しをしたいと我々に最初に話があったのです。

健康的なさまざまな芸術作品を温泉地に配置をしたいということでしたが、私どもとしては大変ありがたいのですが、湯治場の雰囲気を壊すような、よく街角に彫刻を置いたりしているところを写真で見たりしたのですけ

れど、そうではなくて、逆に湯治場の風情をもっと良くするような取り組みであるということ考え出したのが、八角形の灯籠に和紙を貼って絵を描くという話で進んできています。

肘折温泉の朝は早いけれど、夜は6時くらいに閉まってしまいます。夜はゆっくり歩きたいけど、ちょっと寂しい感じがするので、そぞろ歩きもできるような形ということで、夜のイベントを考えた経緯がありました。それを描くときに学生なり大学院生がレイアウトを話し合い、こういうのが良いねとか関係者からいろいろ聞き取りをします。そうしてから絵を描いていきますので、地元との距離感も縮まっていく形で取り組んでいます。

石川：以上、パネリストの皆様から報告を受けましたが、会場からも意見、質問を交えてやりたいと思います。今の肘折の灯に関して、関わった経過で岡村さんから補足説明をしていただけますか。

岡村：法政大学大学院の岡村です。直感ですが、「肘折の灯」というのが開湯一千二百年祭の時にスタートしたのは、東北芸術工科大学さんと地区とのコラボという形があったからだと思います。赤坂先生をはじめ勢い、思いが非常に強く、百年ないし次世代へつながっていくという部分があると思います。私の方も今年で8回目、見させていただいて、描いているのは大学生ですから20代の方が多いですが、彼らは少なくとも三つの世界を体感しているのではないかと考えています。

一つは、未知の土地ということです。山形市内に大学はあるものの、そうでなくてもいろんなところから入学してこられている方がいるわけですから、それが地域であったり自然であったり、未知の土地という部分との出会いがあります。

それから、山村先生からも先ほど話がありましたように、宿泊者や地元の旅館、お土産屋さん、青年団の方々など未知の人々との出会いという部分もあるのではないでしょう

か。

もう一つは、まさに未知との体験ということで、大学生が仕事としては過度にはならないで街並みを何とか工夫を凝らしながら、肘折らしさを創作からプレゼンテーションまで活かそうと行っているように見えます。

これがどんと打ち上げる打ち上げ花火ではなくて、少しずつ工夫を凝らしながらやっています。実際、これを体験した大学院生や卒業生の方々は、これから生きていくライフステージの中に必ず肘折温泉があるのではないかという感じで私は見えています。

滞在型温泉地の魅力を高める取り組み

石川：ありがとうございます。

湯治場を考える場合、いろいろな要素が魅力的に温泉地の中に含まれていると思います。古くて新しい療養、休養、保養という三要素は本来すべて現在の湯治場の中に含まれています。それからこれは私見ですが、湯治場というのは決して観光温泉地などの要素やいろいろなソフトと対立するものでは全然なく、共存、併存し得るし、すべての観光温泉地の中にも湯治場性というものが含まれているのではないかと思います。

そういう意味では堀さん、山形県でも肘折のような湯治場は本当に少なくなったと言いますが、たとえば上山温泉郷のクアオルト構想など、これも滞在型の魅力を深めようという取り組みですね。少しご報告いただけますか。

堀：現在、「クアオルト」ということで上山温泉では、旅館主が三人ほど、朝食の前にお客さんを先導して、大体一時間ほど裏山を巡ります。滞在型の客に対して、一つの魅力作り、体力作りをサポートしているのです。

これは上山温泉郷の葉山温泉の方が始めましたが、客の滞在にはまだつながらないということで現在、上山温泉ではコースをもう少し広げて、大々的に売り出そうとしています。コースも現行の裏山でなくて、上の方の坊平にも延びています。上山は新湯、旧湯、

葉山の三地区に分かれています。新湯のあるご主人も葉山の方とは少し違うコースを設定するなど全体的には旅館の社長たちが頑張っています。

これが本当に客の滞在に結びつけばよろしいのでしょうか、一つの誘客策として健康志向的に今やっております。町の温泉場でもそういう風なことをやっていますし、肘折もすぐ山があるのですから、そういうことは山形県の温泉場でしたらどこでも可能です。天童温泉も舞鶴山を開発して、クアオルト的に健康志向的な散策コースを作り、案内しています。それもやはり指導者がいないとなかなか成り立たない面がありますが、毎日一人でも参加者がいるとご案内しています。

石川：クアオルトの「クア」は治療の意味で、クアオルトとは温泉保養地のことですね。そうしますと新しい取り組み、魅力作りと同時に、宿や施設側で連泊のプランなどを併せて提案しているのでしょうか。

堀：今は連泊ではなくて、日にちを決めて大々的にイベント的な中に取り入れてやっております。

石川：肘折の灯もそうですけれど、肘折は肘折版現代湯治という表現をされていますね。今までの客層の変化もありますし、滞在日数の変化もあります。設備面の努力もいろいろなさっているようですが、木村さん、そういうことに応えていく取り組みで何か補足することがありますか。

木村：温泉を健康作りに活かすということを基本的な考え方にして、そうした温泉地を目指しているのですが、その部分だけでは人がなかなか増えない部分もあります。従来の湯治のお客様は少なくなっていますので、もう少し現代版というか、温泉地での過ごし方を提案して行かないと滞在してくれないのではないか、と思います。

そこで今回、冬バージョンの体験プログラムを示していますが、春バージョンは11月で大体終わりました。春は山菜採りをした

り、秋はキノコ狩りをするプログラムもあり、楽しみながら過ごしていただくものを提案して、現代版湯治システムを構築する考え方です。まだまだ浸透していませんが、リピーター、二回目の方はそういう情報を知っておりますので、このプログラムに二回、三回参加すると、少し遠出をして一週間を過ごされる60代前後の方が増えているなど感じております。

ただ、どうすれば中長期の滞在をしてもらえるのが難しいのです。お客様を受け入れる我々が、具体的な仕掛けの部分を中心に検討する必要があります。今まではお客様が自分で滞在中の過ごし方を決めていましたが、どう過ごしていいのか分からないという方も多いものですから、若干そういう意味の提案をしながら、三泊四日ほどの滞在をしていたく方策に今取り組んでいるところです。

温泉地の持つ湯治場性を再評価する

石川：自由論題での井上さんと内田さんの研究発表にもありましたような、飽きさせない内と外との温泉地の魅力作りということにもつながりますね。

国民保養温泉地の再定義という形で、先ほど山村先生から伺いました。考えてみますと、この国民保養温泉地の再定義には本来の湯治場性、湯治場というものをもう一度現在の新しい温泉ニーズの中で再評価しようという要素がありますね。

山村：その通りだと思います。まず、最も大切な温泉資源というものをしっかりと押さえ、次にその地域の環境、これもまた重要ですね。それから数日間の滞在が必要ですので、この間、温泉医学が専門の医者が常駐していて、治療や指導を受けられるようにすることこそが欠かせません。現実はどうなっているかと言うと、国民保養温泉地で温泉医が常駐している所はごくわずかです。

国民保養温泉地指定第1号の四万温泉では、温泉療法医の資格を持つ医者がいて評価されます。現代医学の急速な発展を踏まえる

と、温泉に浸かってリラックスしたり、明日への英気を養うという予防医学的な役割が温泉地に求められているのかもしれませんが。

私が調査した結果ですが、入湯客が温泉地に求めることは、①温泉資源そのものの良さ、②温泉情緒のある温泉地の景観、③温泉地と周辺地域の自然環境の良さ、この三点に集約されるのです。また、日本温泉協会の調査では、温泉地に求めるものは、20代、30代、40代くらいまでは「ストレス解消」の割合が高いのです。

また、最も良かった温泉地は、草津が圧倒的にトップで、以下に箱根、別府、黒川、野沢、那須、乳頭温泉郷、登別、下呂、由布院、法師と続いています。最も行きたい温泉地について調べますと、やはり草津をはじめ、湯布院、別府、登別、箱根、黒川、乳頭温泉郷、白骨、四万、伊東などが並んでいます。この結果は、温泉地の規模にかかわらず、その地域の人たちとのふれあいが非常に大切であることを示しています。

次いで、国民保養温泉地の調査ですが、20代、30代、40代では、国民保養温泉地を療養としてではなく保養と答えた人は3割ほどで、観光は5割に達しています。高齢になると逆転して、療養と保養で約9割です。滞在日数は若い人では一泊が6割ほどを占めているのです。したがって、国民保養温泉地は中高年者の保養の場と言うのではなく、多くの若年層の客も訪れているのですね。したがって、温泉地の特性をきめ細かに紹介し、宿泊施設の内容や温泉地の受け入れ態勢、周辺の観光ポイントなどを提示する必要があります。

次にリピーターについて、若い人はもちろん一度しか来ないのですが、中年層から高齢層になるとリピーターが多くなります。特に70代以上では8割が6回以上も来湯しているのです。そこで年齢層に応じたきめ細かな受け入れ体制を構築する必要があります。

また、年齢による温泉志向性も変化してい

るので、国民保養温泉地は療養、保養客のための温泉場ということだけではなく、あらゆる客を受け入れる療養、保養、休養、健康づくりの場として位置づけられます。各温泉地がいかに地域性を活かした多様なメニューを提示して、温泉客に対応するかが問われているのではないのでしょうか。

石川：ありがとうございます。人気トップと言われる草津や箱根の中にも、江戸時代やそれ以前からの湯治場としての圧倒的な存在感というものが基底にあるようです。源泉のパワー、泉質の力が発揮される中で、そうした湯治場的な空間構造が観光温泉地の中に発現されているのが魅力ではないかと思っています。

ここで会場の皆様からほかに質問やご意見がありましたら、受けたいと思います。

朝香：朝香です。最近の温泉の入り方は、シャンプーをするなど昔に比べて変化しています。ところが温泉旅館の多くで、頭や体を洗ったものが浴槽の中に逆流していることが多いと感じます。本当は冷や冷やしながらい入浴しているのですね。シャワーと浴槽が1メートルくらいしか離れていないところでは、やはり泡が入ってきます。折角の良い温泉水が汚れるような思いがあるのです。ですから、せめて浴槽のふちを1センチでも高くしていただければ、逆流はしないのではないかとお伺いします。

それから最初に「掛け湯をして入りましょう」というのも、多分皆さん、何のために掛け湯をしているのか、親も教えていないと思うのですね。そうすると、どうしても浴槽の中の汚れや菌がどのようになっていくかということも心配です。

石川：これについては堀さんに一部答えていただきます。

堀：湯船と洗い場については、必ず湯船のほうを高くしなければならないのです。浴槽を作るときに、一応保健所の方に設計図を提出しますが、洗い場と浴槽は平面になっては駄

目です。ずっと前からそういうものは許可になりません。ただ、シャワーのある洗い場と浴槽がその場所の関係で1メートルも離れていないと、使っているシャワー水などが浴槽に被ることもあります。しかし、その制限というのはいりません。浴槽と洗い場との間の長さの制限というのはいりません。

昔の湯治場では、もちろん掛け湯をして体を洗ってから入りますけれど、タオルも一緒に入れて体を擦ったりしていました。私も小さい時にはタオルも一緒に湯船の中に入れていました。今ならシャワーで流しますが、昔は体についた温泉を洗い流さないためにシャワーも掛けられないのが、本当の湯治のやり方、お風呂の入り方でした。しかし今では清潔感、衛生的な面が大事で、レジオネラの問題も出ていますので、シャワーで体を流します。また、皮膚の弱い方には、酸性の強い温泉に入った場合でもシャワーで流す方もおります。

石川：ありがとうございます。もしほかにもご意見、質問、補足なりありましたら、時間の関係でシンポジウム後に受けることにします。では、もう一方、吉野さんお願いします。

吉野：山形県温泉協会の会員は370名くらいいるのですが、温泉についての関心というか、知識の普及、集会などいろんなことをやっても、若い方がなかなか出てこない状況があります。そういうことも含めて、今日皆様のところに『山形温泉散歩』という本をお配りしました。この本を作るきっかけとなったのは、お客様のためと言うよりは、温泉関係者自身が自分のところの温泉を見直そうというところから始まりました。

最初は「温泉読本」という名前でしたが、少し教科書臭くて嫌だなということで、温泉散歩にしたのです。その中の32ページに「おらが温泉、由来と特徴」というのがあります。ここは事務局で書かず各温泉地の方に、自分の温泉を良く見直してください、自分の温泉がいつ頃できたのか、その辺を見てくださ

いということを書いてもらいました。そうすると意外なことに案外若い方から、自分の温泉地はこんな歴史を持っていたんだとか、湯治場だったんだとか、そういう自分の温泉地の素晴らしさとか歴史が分かったという反響があったことが、この本を作った一番良かった点だと思っています。そのあたりから温泉関係者の意識を深めていくと、湯治場の再生につながるのではないかと考えています。

湯治場の存在意義について

石川：ありがとうございます。今日は肘折を会場に湯治場の再生をテーマにしました。これは結局、温泉地の再生という中の大きな要素、一つのテーマです。山形県でも非常に貴重な形で保たれている湯治場、これを守り発展させることは、やっぱり温泉地の持ち味の差別化にもつながっていくものではないでしょうか。それから繰り返し語られているように、できるだけ滞在型の温泉地にしていく、また、温泉地において新しい人と人の出会いをつくっていく。そこが実は湯治場の核心ではないかと考えております。

私が湯治場の意義を再発見したのは何十年前も前、この肘折温泉でした。温泉街の通りに面した旅館の縁側でおばちゃんたちが自家製の漬物とかお菓子を持ち寄り、お茶を啜りながら、どうして皆こんな笑いさざめいているのだろうと思うくらい楽しんでいるのです。そして「兄さん、寄ってけ」「お茶飲んでけ」とこちらを呼び止める。こうした湯治場、温泉場では誰もが温泉コミュニティーの仲間になれてしまう。お互いの素性を知らなくても仲良しになれるという関係性ができると思います。

一人一人を結びつけるということも、湯治場、温泉地の非常に重要な要素でしょう。同時に、一人でも放つといってくれるし、何か愚痴をこぼしたくなったら、そういう愚痴も共有できるのは、ここでは利害関係、しがらみがないからです。

そして湯治場ゆえに何日滞在しようが、だ

れにもやがて別れが来ます。江戸時代に北東北の湯治場を巡り、滞在した菅江真澄も体験していますし、草津でもそうでしたけれど、必ず湯治客の別れの宴が催されます。歌やおどりを交えてのびやかに繰り広げられるのです。それがまた次のリピーターを生み、いまだに東北の湯治場などであると思いますが、来年のいつ頃またここで会いましょうという新しい縁も生まれます。

ドイツの文豪ヘルマン・ヘッセに『湯治客』という著書があります。ヘッセは座骨神経痛にずっと悩まされて、スイスの古い湯治場バーデンに行きます。痛みをこらえて本当に苦虫噛み潰したような顔をしてバーデンの駅に降り立った瞬間に周りを見たら、皆自分よりひどく足を引き摺ったり、杖を突いたり、痛そうにしている。そこで彼はその本の中で「これこそが湯治場の秘密なのだ」と、湯治場の存在意義を直感しました。

つまり、皆何か痛みや苦しみを抱えて温泉場、湯治場にやって来るわけで、お互いに抱えている痛みを共有する場があるということが分かって気持ちが楽になり、座骨神経痛自身は全快はしませんが、温泉療法を含めて改善するのです。そこには湯治場が持つ核心的な意義、または温泉地の持っている湯治場性の核心的な意義があるのではないかと思います。

木村さんのお話にありましたように、そういう湯治場、肘折の持ち味、空間を活かしながら、若い学生が参加してアートの取り組みやいろいろな取り組みをなさっています。こういうことがほかでも温泉地の滞在ソフトの開発ということにつながっていれば、湯治場の意義というものには十分にあると思います。

もう一つ、平和で安らげる避難所、アジュールとしての湯治場の意義ということは3.11東日本大震災の際に北東北の花巻温泉郷やほかの湯治場で存分に発揮されました。自炊滞在もできる湯治場は、長期間誰もが自分の空間やコミュニティーを保ちながら受け入れら

れるような空間、設備を持っている場所という点で貴重です。

それがヨーロッパのクアオルトや何かにつながる滞在型の温泉保養地の魅力であるでしょうし、海外からのインバウンドにも滞在環境に優れた国民保養温泉地をもう少しブランド化しようという新しい取り組みにもなっているのではないかと期待しています。

最後になりましたが、パネリストの皆様、一言だけというのがありましたらどうぞ。

山村：日本温泉協会のアンケート結果ですが、温泉地に常設して欲しい施設やサービスについて聞きました。そのトップは「観光ガイドをして欲しい」と言うことです。これが圧倒的に多い。次いで、散策の案内とあり、以下、マッサージ、特産品販売、入浴指導、郷土史講座、郷土料理指導、森林浴案内、観光果樹園、健康指導と続いています。温泉客は、先ず温泉地の地域的特色を案内して欲しいのです。地域案内では、ガイドは頭に入れたことをうまく説明しようとするのと一方的かつ朗読調になって、これでは困ります。

まず、野外へ出て案内する場所に着いたら、参加者は一帯の「観察」、「観測」、「聞き取り」をするのです。私は、この三点を「野外実習の3K」と名づけましたが、温泉地の地域案内でも変わることはありません。案内人から受身の説明を聞くだけではなく、自ら参加して3Kによって地域の特性を把握し、その意義を考えることが大切です。そこで、それぞれの温泉地に精通した地域ガイドの養成が欠かせません。

もう一点、小学生が野外教育の一環として、実践的な観光ガイドを組み込んでいるところがあります。大分県の臼杵にある国宝の石仏群では、小学生が観光客に説明をしており、高く評価されます。小さいうちから郷土の宝を実地に勉強すると同時に、外来のお客さんに伝えるということです。子供たちにとっては総合学習の成果をあげるとともに、なによりも全国各地から訪れた人々と触れ合え

ます。今後、多様な人材を活かした温泉地域づくりがとても大事ですので、各温泉地で前向きに取り組んでいただきたいと思います。

木村：私たちには失敗も反省もあるのですが、温泉地には変わるべきでないものと、変わるべきものがあると思います。つまり、肘折のお客様にとって変わるべきではないものをきちんと保全する。変えていくものは変えていく。変えるべきものを変えなかったのではないかということが今に現れているのかな、という反省があります。

堀：私はやっぱり滞在時間ですね。肘折に来た方でもなるべく滞在時間を多く取れるような温泉地のリードの仕方をしていただくと、本当の良さが分かっていたら、リピーターになれるのではないかと考えています。滞在時間というと、朝早く出発して、夕方泊まっていたら時分に到着し、何にも温泉地の様子が分からないで帰って行くお客様が観光地には結構多いのですね。そういうことではなく、お客様の滞在時間を長くされるような方策を検討したいと考えております。

石川：それでは本日のシンポジウムを終わります。どうもありがとうございました。

(本稿は、浜田眞之理事長の尽力による録音原稿にもとづき、山村順次常務理事とコーディネーター役の石川がまとめた。)

書評①

菊地一富著：『絆—出合いを大切に』

あさを社 299頁 2014年3月
自費出版

近頃は自分史を自費出版する方が多くなった。本書は、日本温泉地域学会の創立大会(2003年)以来の会員であった、菊地一富氏の80年にわたる自分史である。

「著者略歴」には、1934年東京生まれ。大学卒業後、明治生命に入社。生保マンとして現役を過ごす。1964年結婚、一男一女を育て、孫5人。早期退職後、充実したセカンドライフを送り、21世紀は草津温泉に永住。地域活動と生涯学習に打ち込む。温泉観光士、京都検定1級、江戸検定1級合格。2012年以来、末期ガンとの闘いに打ち勝ち、満80歳を迎えた、とある。

本書は、序幕、第一幕：成長への胎動、第二幕：社会への飛躍、第三幕：豊かなセカンドライフ、終幕、で構成され、随所に豊富な写真があり、たいへん読みやすくなっている。

ここで注目すべきことは、第三幕第二場：草津ライフとし、第二の人生を群馬県草津温泉に永住し、さまざまな活動を行ったことが紹介されていることである。

草津温泉は、海拔1,200mの高原で、冬季は雪が多いが、年平均気温が18℃と「日本のチロル」ともいえる環境である。源泉の自然湧出量が日本一で、毎分約3万2千リットル、18か所の共同浴場があり、日本でも最も人気の高い温泉地の一つである。

菊地家は、2001年に、草津町による「21世紀の高齢化社会に備えて高福祉の住宅街建設構想」に基づき建設された「草津ヒルズ」に自宅を移し、本格的な草津ライフを開始された。「草津ヒルズ」は、町の中心部から徒歩15分の所にあり、町内の共同浴場に近いで、温泉をいつでも楽しむことができる。

2000年に町政100周年を迎えた町は、百人委員会をスタートさせ、以後、町民の一人として、他の温泉地を見学したり、健康づくり活動に参加したり、町の活性化のためにいろいろ提案を行ってきた。

2003年には、ベルツ博士の出身地であるドイツのビューティヒハイム・ビッシンゲン市を訪問し、奥様が作成した内裏雛を贈呈し、交流を深めた。この年5月には、草津温泉で開かれた日本温泉地域学会の創立大会に参加し、その後、東鳴子温泉大会(同年11月)、由布院温泉大会(2004年5月)、強羅温泉大会(2004年11月)にも参加し、2004年10月には草津温泉観光士養成講座を聴講し、温泉観光士の資格を得た。

これを機に、観光の先進地、京都や「氷室」の研究へと進むことになる。草津では、毎年6月1日に「氷室の節句」の行事があり、観光客に湯畑で氷がふるまわれている。また、草津時間湯保存会に加入し、草津温泉「ベルツ記念館」館長であった沖津弘良氏とも交流があった。これらの経験は、草津町の観光ガイドへもつながっている。

以上のように、本書は、常に変わらぬ人生に対する前向きな姿勢で、病や怪我を克服し、豊富な体験を基にまとめられており、人生に対する教訓に富んでいる。また、草津温泉を例に、温泉地が今後どうあるべきかを問いかけていえると言えよう。

なお、本書は自費出版のため市販されていないので、もし、入手ご希望の場合は、下記宛ご連絡いただきたい。

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町
草津891-26 菊地一富氏

(長島 秀行)

書評②

深津禮二著：『歌集 二人旅』

六花書林 229頁 2014年11月
非売品

著者、深津禮二氏は、日本温泉地域学会の創立以来の会員であったが、現在は、ご子息の深津卓也氏に引き継がれている。禮二氏は九十年以上続く群馬県上牧(かみもく)温泉の老舗旅館、辰巳館の三代目の当主である。

辰巳館は、山下清画伯(貼り絵画家)による大壁画風呂・はにわ風呂があることで有名である。上牧温泉は谷川岳や水上温泉にも近く、ホテルの名所でもある。

「あとがき」によると、長谷川富市氏(新潟大学名誉教授)の指導により、「最初にして最後の歌集」(歌集に添えられた挨拶より)を出版することができた、とのことである。

現在、85歳であるが、「人生はご縁あつての出会いであり、長い旅であり、ヒトとの交流を通してこれからはより充実した余生を心掛け、持病と共存しながら生き生きと過ごしたい」と、決意を述べている。表題の[二人旅]は、もちろん、奥様との人生の二人旅である。

評者は、短歌にはあまり親しんだことがなく、読み通せるか心配したが、全編を通して初心者にもたいへんわかりやすく、親しみやすい歌が多かった。内容が温泉や温泉旅館に関わる題材が多いせいかもしれない。

長谷川氏の跋(おくがき)によると、「本歌集[二人旅]は作者の自伝的要素の強い歌集で」あり、「誠実に精一杯に人生を歩んだ作者の姿がある」。

本歌集は、「旅」、「妻」、「群馬上牧」、「季節」、「境涯」の章に分けられ、約800首が収められている。いくつか印象に残った歌を選んでみる。

写真には いつも並んで 二人あり 人生の
悲喜 二人して老ゆ

さいわいは ここにありしか 月夜野の
源氏・平家の 蛍飛び交う

雪山に 三十四ヶ所 穴ありて 温泉探ると
足冷え果てぬ

秋に二度 テレビに映る わが宿の 山下清
(きよし)の 壁画半世紀たつ

温泉の 掘削苦勞を 想いやる 夜半の浴舎に
月冴え渡る

落雷し ポンプ壊れて 断水す 事故を話して
客を旧館へ

飯炊きを 七拾余年 飽く事なく 三代仕え
老女今逝く

朝仕事は 帰るお客の お見送り 笑顔に接し
そっと安堵す

「温泉が 止まったすぐに 来てくれ」と 告
げられ老は ひた走りゆく

今日も 又地熱開発に 意見書を 無駄と知り
つつ 書き改める (地熱発電)

十四日 疲れきりたる 老家族 二十六人
迎え入れたり (東日本大震災)

原発の 避難者宿泊 二十余人 洗濯機購ひ
古着衣蒐集す (東日本大震災)

深津氏が歌人であることは、温泉関係者にはあまり知られていなかったようで、評者もこの歌集で初めて知った次第である。

本書は非売品で、在庫はないとのことである。近くの図書館などに問い合わせるのも良いかもしれない。

(長島 秀行)

温泉地情報

柿其温泉にみる「ため湯」の魅力

澤田陽介(フリーライター)

1 柿其温泉の概要

柿其(かきぞれ)温泉は、長野県木曾郡南木曾町に位置する温泉地である。そこには、25年前に約6メートル掘削して泉源を確保した、「いちかわ」という小さな宿が一軒建つのみであり、宿泊をはじめ入浴や食事のみの利用も周年受け付けている。

柿其温泉へのアクセスは国道19号線(中山道)を利用する。国道19号線は愛知、岐阜、長野各県を結ぶ主要幹線道路で、常に激しい車の往来がある。しかし、柿其温泉は国道から林道を山へ数キロ入った場所にあるため、周辺の静かな環境は保たれている。

2 柿其温泉の温泉使用方法

柿其温泉の一軒宿「いちかわ」の浴室は、男女別の内湯が備わるのみである。浴槽の大きさは畳一畳ほど、大人二人入れば一杯になるほどと言って差し支えない。ご主人の市川豊氏の意向により、浴室はすべて木曾の木材で賄っている。浴槽は檜、床と壁と天井は檜を用いた造りである。

泉質は単純放射能冷鉱泉で、源泉温度が7.6度と極めて冷たく、湧出量も毎分約10リットルと非常に少ない。それをここでは循環せずに、加温した温泉を無駄なく湯殿へためる「ため湯」方式を採用している。したがって衛生面での管理を最重要課題として、毎日の完全換水と早朝からの丁寧な清掃を欠かさない。

3 周囲の自然景観と散策路

柿其温泉の近くには、木曾川支流の柿其川を中心とした柿其溪谷が存在し、散策路が完備されている。実際、入浴前の散策を宿のご

主人が客に勧めるほど、地元の方にとっても自慢の散策路であるという。

柿其溪谷の散策路は、短い吊り橋を渡るところから始まる。悪天候時には回り道を余儀なくされるが、通常は川面に近く、臨場感ある遊歩道を進んでいく。遊歩道の全長は約400メートル。起伏が相当あるため、片道20分はかかるだろう。歩いた先には、30メートルの高さから落ちる牛ヶ滝が轟音とともに待っている。水量も豊富で水は澄み渡り、迫力満点の絶景である。滝が見える場所に屋根付きの休憩所もあり、ハイキング客の姿もしばしば見られる。

4 柿其温泉の魅力と現状

柿其温泉のため湯では、浴槽の上に蛇口が2つ付き、加温口からは加温源泉が、冷泉口からは冷鉱泉の源泉が出る仕組みとなっている。したがって源泉そのものを体感できるし、蛇口から新湯を投入すれば、ため湯でもいつも新鮮で清潔な入浴が楽しめる。

さらに、他の入浴客への配慮を前提として、加温源泉や冷鉱泉の量を調整することで、自分好みの湯温にすることも可能である。また、常に流れ出る湯口が存在しないため、落ち着いた入浴を味わうことができる。窓を開放し、木曾の山々を一望していると、風の音まで聞こえてくるほど静かに過ごすことが可能となる。これらの点は、ため湯の魅力として挙げることができるだろう。

柿其温泉は、平成26年7月の豪雨災害や御嶽山の噴火など天災により、観光面で打撃を受けている。しかし放射能泉の泉質を大切にしている「いちかわ」のご主人は、東日本大震災に伴う原発事故によって放射能に対する風

評被害が未だに大きく、放射能にも良悪の二種類が存在していることを広く主張して欲しい、と話してくれた。魅力あるため湯が永続するためにも、温泉の放射能泉に対する説明を解りやすく行う必要性が問われそうである。



写真1
柿其温泉の一軒宿「いちかわ」の外観



写真2
ため湯方式の浴槽



写真3
散策路にある牛ヶ滝

(注) いずれも筆者撮影。

学会記事

●日本温泉地域学会第25回研究発表大会・総会

2015(平成27)年5月17日(日)・18日(月)の両日、日本温泉地域学会第25回研究発表大会・総会を長崎県雲仙市雲仙温泉にて開催します。すでに奈良時代の『肥前国風土記』に記されている雲仙温泉は、明治以降外国人観光客・避暑客が集う国際的な温泉リゾートとして発展し、雲仙は日本最初の国立公園の一つとして昨年、指定80周年を迎えました。

本大会では総会を開催します。役員改選、会則一部改定も予定しており、多くの会員の参加を要請します。

日本温泉地域学会第25回研究発表大会・総会スケジュール

開催温泉地：長崎県雲仙市雲仙温泉

開催日：2015(平成27)年5月17日(日)～18日(月)

発表会場：ゆやど雲仙新湯 TEL.0120-73-3301

宿泊施設：ゆやど雲仙新湯

懇親会場：ゆやど雲仙新湯

視察会集合：5月17日(日)12時20分、長崎空港到着ロビー。13時05分、JR諫早駅前

受付：5月17日(日) 17:00～ゆやど雲仙新湯

5月18日(月) 8:40～ゆやど雲仙新湯

参加費：一般会員・賛助会員2,000円、学生会員1,000円、その他1,000円(資料代)

懇親会費：6,000円(学生4,000円)。学会指定宿を利用する場合、懇親会費は宿泊費に含まれます

宿泊費：学会指定宿を利用する場合、懇親会費・朝食込みの1部屋2～3名利用基本で1人当たり料金1万2,000円です。なお、一人室希望の場合の追加料金は6,000円です。

参加申込：参加者は下記参加形態によって該当金額を郵便振替で学会事務局振替口座宛に4月24(金)日(必着)までに払い込んでください。通常、払込確認まで日数がかかり、大型連休も控えていますので、早めの手続きをお願いします。

交通案内：第一集合場所の長崎空港では、伊丹10時35分発JAL便11時55分着と羽田10時発JAL便12時05分着を待って出発します。第二集合場所のJR諫早駅では、博多11時15分発特急かもめ(名古屋7時37分発、新大阪8時27分発新幹線のぞみ博多駅着10時56分から乗り継ぎ)13時03分着を待って出発します。

帰りは14時50分に大会終了後、JR諫早駅と長崎空港までバスを手配します。JR諫早駅発「特急かもめ」16時12分博多行き、長崎空港17時45分発ANA便伊丹行き、同18時50分発ANA便羽田行きに間に合う予定です

研究発表大会・総会に参加される会員は、以下の参加形態によって郵便振替で学会事務局振替口座宛に相当金額を4月24日(金)必着で前納してください。払い込みによって学会参加申し込みとします。また、本年度年会費(賛助会員:3万円、一般会員:4,000円、学生会員2,000円)未納の方は、以下の金額に年会費をプラスして送金してください。研究発表大会不参加の場合でも、会費未納の会員は郵便振替用紙で送金をお願いいたします。

学会指定宿泊+学会参加 : 12,000 + 2,000 = 14,000円 (学生:13,000円)
懇親会参加+学会参加 : 6,000 + 2,000 = 8,000円 (学生:5,000円)
視察会・学会参加のみ : 2,000円 (学生:1,000円)
郵便振替口座番号: 00190-6-462149
加入者名 : 日本温泉地域学会

日程

5月17日(日) 視察会、懇親会

12:20 長崎空港到着ロビー集合

13:05 JR諫早駅前集合

13:05 ~ 17:00 視察会: JR諫早駅~仁田峠~雲仙地獄~温泉街~小浜温泉~雲仙温泉

17:00 ゆやど雲仙新湯で宿泊・懇親会の受付

18:30 懇親会(ゆやど雲仙新湯)

5月18日(月) 研究発表大会・総会(会場:ゆやど雲仙新湯)

8:40 受付

9:10 ~ 10:10 研究発表

10:10 ~ 10:20 休憩

10:20 ~ 11:40 研究発表

11:40 ~ 12:40 昼休み(理事会)

12:40 ~ 13:10 総会

13:10 ~ 13:20 休憩

13:20 ~ 14:50 基調講演・報告(サブ講演)・質疑応答

研究発表大会プログラム

5月17日(月)

自由論題 発表時間:20分(発表15分、質疑5分)

座長:布山裕一(流通経済大学)

9:10 ~ 9:30 黒沢則夫・酒井博之(創価大学)「温泉微生物研究の醍醐味」

9:30 ~ 9:50 鈴木晶(別府大学)「温泉観光地由布院の変容に関する考察」

9:50 ~ 10:10 石川理夫(温泉評論家)「日本の『温泉神』の成立構造と特質」

10:10 ~ 10:20 休憩

座長:西村りえ(温泉ライター)

10:20 ~ 10:40 松本馨(大学職員・温泉観光士)「強酸性泉による湯治療養と酸性泉リスト作成」

- 10:40～11:00 岡山俊直(福岡女子大学)「英文資料を用いた雲仙温泉における『避暑地時代』の魅力を探る試み」
- 11:00～11:20 池永正人(長崎国際大学)「島原半島の観光地域構造」
- 11:20～11:40 浜田眞之(国際温泉研究院)「ジオパークの意味と温泉地の観光と振興との関係について」
- 11:40～12:40 昼休み(理事会)
- 12:40～13:10 総会
- 13:10～13:20 休憩

基調講演と報告(サブ講演)

司会：池永正人(長崎国際大学)

- 13:20～13:50 基調講演 宮崎高一(雲仙宮崎旅館社長・雲仙プラン100地域づくり委員長)「雲仙プラン100による雲仙のまちづくり」
- 13:50～14:10 報告1 能津和雄(東海大学)：「九州における広域観光と温泉との関係について」
- 14:10～14:30 報告2 齊藤雅樹(大分県産業科学技術センター)：「温泉地とおもてなし一別府温泉郷でのスマホを利用した温泉コンシェルジェの取り組み」
- 14:30～14:50 質疑応答

- 日本温泉地域学会第24回研究発表大会は、2014(平成26)年11月9日(日)・10日(月)の両日、山形県大蔵村肘折温泉郷にて開催され、約60名の会員の参加を得ました。

山形新幹線さくらんぼ東根駅に集合後、バス2台に分乗して視察会に出発。1台は山形空港に立ち寄り、到着会員を乗せてから肘折温泉郷に向かいましたが、先発組は肘折温泉郷の黄金温泉「カルデラ館」に直行。炭酸泉の飲泉体験をしました。後発組も黄金温泉カルデラ館では飲泉とともに入浴体験した会員もいました。その後、野湯の石抱温泉を視察。石造り湯壺脇から自然湧出する源泉を一同興味深く観察しました。その後は肘折温泉街の湯治場情緒漂う街歩きを行い、源泉井や源泉の湧出を観察できるドーム、足湯などを体験しました。翌日早朝には朝市を見学した会員も多かったようです。

分宿先の一つ「つたや肘折ホテル」で開催した懇親会では大蔵村の加藤村長のご挨拶もいただきました。地産地消の食材にきのこ汁など美味しい郷土料理による心も体も温まる地元の皆様のもてなしに全員満足し、また感謝する次第です。

- 今年も、第12回目にあたる草津温泉観光士養成講座が草津町の後援により9月28日(月)～30日(水)の2日半にわたり開催されます。合格者には草津「温泉観光士」の証書が授与されます。今年度から申し込み方法が変更となり、申込窓口が日本温泉地域学会から草津町役場観光課となりました。詳しい案内と申込用紙を本学会記事の後に掲載しています。なお、申込み期限は9月14日(必着)です。
- 次号の学会誌『温泉地域研究』第25号(9月刊)の論文・研究ノート・書評・資料・温泉地情報などの原稿を募集します。必ず投稿規程・執筆要領(学会ホームページに掲載)に従い、これまでの学会誌を参考にして、直接編集委員会(編集担当メールアドレス mi-ishikawa@ac.auone-net.jp)宛に原稿送付状とともにワード原稿(テキストならびに図版)を送付してください。

原稿は常時受付けていますが、第25号への原稿送付締切りは7月18日(土)必着です。論文と研究ノートは、査読を受けてパスしたものから順次掲載します。会員の積極的な投稿を期待します。

- 続いて、今秋の第26回研究発表大会の開催日程・温泉地も決まりました。11月23日(月・祭日)・24日(火)の2日間、神奈川県箱根町の箱根湯本温泉にて開催します。会場・学会指定宿は「ホテル南風荘」で、視察先として特別に神奈川県立温泉地学研究所、さらに大涌谷噴煙地・ジオミュージアムなどを予定しています。

研究発表を希望される会員は、8月25日(水)必着で、発表者名・所属・タイトル・発表内容(100字程度)をメールまたははがきに書いて学会事務局へ申し込んでください。

- 【学会誌訂正のおわび】 『温泉地域研究』第23号のシンポジウム報告「鳥取県の温泉地の活性化―観光振興の展望―」中に2か所訂正があります。発言者の御船秀三朝温泉木屋旅館社長にはおわび申し上げます。

65頁右34行目：温泉地への提言本を出しました→温泉地への提言本を見つけました

71頁右23行～24行目：これは温泉と地域と医療の連携、ここですと再生治療の連携で生まれたものです→温泉と地域と医療との連携、ふるさと再生事業の中で生まれたのが現代湯治です

- 学会HPでは学会ニュースをたえず最新のものに更新しています。会員はふだんから学会HPを閲覧するように要請します。

第12回

主催：日本温泉地域学会
後援：草津町

草津「温泉観光士」養成講座のご案内

講座開講の趣旨と講座内容

日本温泉地域学会は、天与の恵みである温泉資源を保全し、その適正利用を図る中で、全国の温泉地がそれぞれに個性豊かで持続可能な温泉地域社会を形成し、多くの人々の観光や保養のために活かすことが最も求められていると考えて、平成15年5月に草津町で設立されました。草津町は学会の趣旨に賛同し、日本温泉地域学会主催の「温泉観光士」養成講座を毎年すでに11回実施しました。その他に昼神温泉・別府温泉・鴨川温泉・熱海温泉でも開講されて好評でした。今回、日本温泉地域学会の自然・人文・社会の各分野のすぐれた専門家を招聘し、民間大学ともいえる草津「温泉観光士」養成講座を開催することにしました。この講座では、講師の先生方に大学レベルの内容を平易に講義していただき、受講者が温泉学の総合的学習を踏まえて温泉の本質を理解し、観光・保養温泉地域の発展・活性化に寄与する実践力を身につけることを意図しています。



温泉
観光士

申込方法

申込先

今年度より申し込み方法が変更となりました。

申込窓口が日本温泉地域学会から草津町役場観光課となりました。

受講希望者は必ず申込用紙に氏名・住所・年齢・性別・職業・電話番号を明記の上9月14日(必着)までに下記まで郵送またはFAXにてお申し込みください。その後必ず受講者氏名を入れて受講料を銀行振り込みで入金して下さい。受講料納入をもって申込完了とします。

なお、町内在住の方は、直接草津町役場観光課に受講料を納入し、申し込んでください。受講申込用紙は、裏面に記載してあります。

入金確認後、養成講座開催1週間前を目処に参加案内を送付いたします。

※申込用紙が届かない場合、未入金の場合、受講者氏名の明記がされていない銀行振込の場合は確認がとれないため、申込完了にはなりませんのでご注意ください。

受講者

18歳以上の方であれば、どなたでも参加できます。
募集人員は約50名(申込順で締切)。

受講料

1名10,000円(教材費・認定証代などを含まず)。宿泊費・交通費などは各自負担です。宿泊については、草津温泉旅館協同組合(Tel. 0279-88-3722)で宿を紹介します。
※尚、前日、当日のキャンセルにつきましては受講料の返金はできませんのでご了承ください。

開催日と会場

平成27年9月28日(月)～30日(水)の2日半
草津町役場4階大会議室

資格認定

30日の最終時間に試験をします。出席状況や試験結果、翌日の野外実習参加を踏まえて、合格者には日本温泉地域学会認定の「温泉観光士」の証書を授与します。

講座プログラム

9月28日(月) (受付は午前9時30分～)

温泉文化論(温泉文化史・温泉地域資産)
温泉化学(温泉成分・温泉分析・温泉管理)
温泉医学(温泉療養・入浴法・温泉と健康)
温泉生物学(温泉微生物・レジオネラ属菌)
温泉工学(温泉掘削・集中管理・浴槽)

9月29日(火) (受付は午前9時45分～)

温泉観光学(日本温泉地の発達と活性化)
世界の温泉地(各国温泉地の発達と現状)
温泉地学(温泉とは・湧出機構・保護と利用)
温泉法学(温泉法・温泉行政・温泉権)
試験

9月30日(水) (受付は午前8時45分～)

温泉学野外実習と修了式

講師

日本温泉地域学会会長・温泉評論家 石川理夫
中央温泉研究所常務理事 甘露寺泰雄
国際医療福祉大学院教授 前田眞治
東京理科大学嘱託教授 長島秀行
国際温泉研究院代表 濱田眞之
千葉大学名誉教授 山村順次
京都大学名誉教授 山由悠紀
流通経済大学講師 布山裕一

—お問い合わせ—

草津町役場観光課
草津「温泉観光士」実行委員会
TEL.0279-88-7188(ダイヤルイン)
FAX0279-88-5468

Journal of Studies on Spa Region

No.24
2015.3

contents

Articles

- Roles of Spa Perceiving through the Popular Movie Series “Otoko wa Tsuraiyo”
..... Rie NISHIMURA (1)

Research Notes

- Treatment and its Issues of Atopic Dermatitis by Strongly Acidic Hot Spring Cure
..... Kaoru MATSUMOTO (13)
- Tourism Development with Hot Spring Facilities at Maehongson Prefecture, Northern Thailand
..... Tatsuo URA Takaaki KOBORI Anawut CHOOSUP Pantira SIGTAIPOB (21)

Symposium

- Restoration of Health Spa, Considering its Present Significance
..... (29)

Book Reviews

- Kazutomi KIKUCHI 『KIZUNA (Bonds), My Precious Encounters』
..... Hideyuki NAGASHIMA (41)
- Reiji FUKATSU 『The Collection of Tanka “My Life’s Journey of Couple”』
..... Hideyuki NAGASHIMA (42)

News on Spa

- A Charm in a Bathtub Saved Hot Spring Water at Kakizore Onsen
..... Yosuke SAWADA (43)

- Notes and News (45)